

第二十三回 帝國議會 衆議院議事速記錄第二十號

明治四十年三月二十三日(土曜日)午後一時九分開議

議事日程 第十九號 明治四十年三月二十三日 午後一時開議

第一 租稅其他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 統監府、關東都督府及樺太等在勤巡查看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 韓國ニ在勤スル居留民團立在外指定學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第五 米國「ゼームスタウン」博覽會出品國庫補助ニ關スル建議案(村松愛藏外) (委員長報告)

第六 鑛業獎勵ニ關スル建議案(宮吉啓三郎外七名提出)

第七 ホテル開設ニ關スル建議案(淺羽靖外四名提出)

○議長(杉田定一君) 諸般ノ報告ヲ致シマス

〔書記朗讀〕 一 貴族院ヨリ送付セラレタル政府提出案左ノ如シ 森林法改正法律案

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ 高等學校ヲ四國ニ設置スルノ建議案

提出者 田中 定吉君 久保 彦太郎君 松家 徳二君 長谷部 倉藏君 森 肇君 楠 木 玄君 岩本 晴之君 橋本 久太郎君 右成規ニ據リ提出候也

一 早速整爾君ヨリ稅制整理ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ (左ノ質問書ハ朝讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス) 稅制整理ニ關スル質問主意書

明治四十年三月二十三日 提出者 早速 整爾 贊成者 花井 卓藏 外三十四名

稅制整理ニ關スル質問主意書

一 政府ハ前期議會ニ於テ稅制ノ整理ヲ行フヘキコトヲ公約シタリ政府ハ果シテ此公約ヲ履行スルノ誠意アル乎

二 稅制ノ整理ニ關シテ政府ハ果シテ根本的革新ノ主義ヲ採ル乎敢テ政府ノ方針ヲ問フ

三 稅制整理ハ二年以内ニ之ヲ行フヘシトハ政府ノ言明セシ所ナリ政府ハ果シテ次

四 キノ議會ニ於テ稅制改正ニ關スル法律案ヲ提出スルノ見込ナリヤ

大藏大臣ハ豫算委員會ニ於テ稅制ノ審査ハ一段落ヲ告ケタリト言明セリ政府

ハ國民ニ對シテ其審査ノ結果ヲ公表スルノ意ナキ乎

五 大藏大臣ハ又豫算委員會ニ於テ更ニ稅制整理ニ關スル調査會ヲ設置スルノ

意アルコトヲ示シタリ該調査會ハ果シテ如何ナル組織ノ下ニ之ヲ設置セントスル乎

右及質問候也

○議長(杉田定一君) 是ヨリ會議ヲ開キマス

○荒川五郎君 公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案委員會ハ未ダ結了ニ至リマセ

ヌガ、今日ハ審査期限アリマスカラ、是カラ直チニ委員會ヲ開キタイト思ヒマス、御許

ヲ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案ノ委員會ヲ開キタイト

云フコトノ請求ガアリマス、許シテ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕 御異議ガナシト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナシト認メマス

○福井二郎君 請願第六分科會ノ委員會ヲ開キタイト思ヒマスカラ、退席ヲ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 請願第六分科會ノ委員會ヲ開キタイト云フ請求ガアリマス、

許シテ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕 御異議ガナシト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 請願第二分科會ノ委員會ヲ開キタイト云フ請求ガアリマス、御

許シテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス、明治三十八年度豫備金支出承諾ヲ求ムル件ノ委員會ヲ開キタイト云フ請求ガ大津淳一郎君ヨリアリマス、許シテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス、立川雲平君ヨリ市場法案ノ委員會ヲ午後一時ヨリ開キタイト云フ御請求ガアリマス、許シテ御異議ハアリマセヌカ

〔早速整爾君登壇〕

○早速整爾君 諸君、私ハ稅制整理ニ關スル質問書ヲ提出シテ置キマシタカラ、其理由ヲ陳述致シタイト考ヘマスガ、會期切迫ノ今日デゴザイマスカラ、極メテ簡單ニ申シマス、此稅制ヲ整理スルコトノ必要アルト云フコトハ、今更私共ガ多言ヲ費スマデモナク、政府ニ於キマシテモ前期ノ議會ニ於キマシテ此稅制ノ整理ヲ實行スルコトヲ約言セラレテゴザイマスカラ、此整理ヲシナケレバナラヌト云フコトハ、私ハ此席デ申上ゲヤウトハ考ヘナイノデゴザイマスガ、政府ガ前期ノ議會ニ於キマシテ此稅制整理ヲ履行スルコトヲ公約セラレナガラ、私ハ政府ニ於テ果シテ此稅制整理ヲ斷行スルコトコロ、誠意ガアルニ否ヤト云フコトヲ疑フノデゴザイマス、ソレハ豫算委員會並ニ其他ノ特別委員會ナドニ於ケル大藏大臣其他政府委員ノ辯明ヲモテ、昨午ノ議會ニ於テハ稅制整理ト云フコトヲ公約シタケレドモ、實際ニ於テ此稅制整理ヲ實行スルコトハ甚ダ困難アルト云フガ如キ意味ヲ陳述致サレテ居ル、例ヘバ豫算委員會ニ於ケル阪谷大藏大臣ノ演說中ニ、戰後數年ノ間ハ成ルベク此財政上ノ急激ナル變動ヲ避ケネバナラヌカラ、稅制改革ノ如キモ成ルベク非常ナル變革ノナイヤウニ努メナケレバナラヌト云フコトヲ述ベラレテ、其一例トシテ織物消費稅ノ如キモ今ノ廢スルコト云フコトハ宜イニシテモ、之ヲ廢スルコト云フコトハ經濟上ニ非常ナル變動ヲ起スヲ免レナイカラ、餘程慎重ニ考ヘタ上ナケレバ此稅制ノ改正ヲ行フコトハ困難アルト云フコトノ意味ヲ述ベラレテ居ル、又鹽專賣法ニ對シテ政府ノ意見ヲ尋ネマシタ際ノ如キ、政府カラシテ絕對ニ此鹽專賣制度ヲ廢止スルコトハ出來ナイ、鹽專賣制度ト云フモノハ、最も必要ナルガ如キ議論モ主張セラレテ居ルノデゴザイマス、其意味ノ中ニ私共ガ考ヘテ見マシタル云フコト、稅制整理ヲ行フコトハ、口ニハ之ヲ唱ヘラル、ケレドモ、其精神ト云フモノハ無イヤウニ認メラレルノデゴザイマス、大藏大臣ハ稅制ノ整理ヲ以テ戰後經營ノ一大要義ナリト唱ヘラレ、免ニ角稅制ノ整理ヲ實行シナケレバナラヌト云フコトヲ曾テ明言セラレタルニ拘ラズ、唯今申述ベマシタ如ク近時豫算委員會其他ニ於テ說明セラル、トコロニ依リマスレバ、如何ニモ稅制整理ト云フコトハ困難デアッテ、容易ニ之ヲ實行スルコトハ出來ナイト云フ、風ノ半面ノ意味ヲ示サレテ居ルノデアリマス此故ニ私ハ第一ニ政府ニ向テ質問ヲ致シタイ、ソレハ昨年ノ議會ニ於テ稅制整理ヲ斷行スルコトハ公約セラレタノデアルガ、政府ハ果シテ此公約ヲ履行スルコトコロ、誠意アルヤ、誠心アリヤト云フコトヲ第一ニ質問致シタイノデアリマス、ソレカラ次ニハ此稅制整理ヲ行フコト致シマシタコトヲ、稅制整理ニ關スル政府ノ方針ガ如何デアルト云フコトヲ承ハリタイ、申スマデモナク我日本ノ稅制々度ハ實ニ系統モナク不統一デアリマシテ、紛糾錯雜、或ル論者ノ言ハク如ク實ニ煩苛ナル稅制々度ノ下ニ立テ居ルガタメニ國民ノ苦痛ト云フモノハ非常デゴザイマス、税金ノ高ガ多イノ下ニ立テ居ル、租稅ノ制度ト云フモノガ非常ニ煩雜デアルガタメニ、國民ノ苦痛ト云フモノガ實ニ甚シイノデゴザイマスカラ、即チ此稅制整理ト云フ問題ノ起ル所以デゴザイマスガ、大藏大臣ハ此稅制整理ヲ行フニ當テ果シテ如何ナル主

義ヲ採ラル、カ、根本的ニ之ヲ改革シテ、即チ所謂根本的革新ノ主義ノ下ニ此稅制整理ヲ斷行スルコトヲ御方針デアルカ、或ハ又根本的ノ革新ト云フコトニアラズシテ、制度ノ上ニ付イテ、唯多少ノ變更ヲナスト云フニ止マルガ如キ整理ノ御方針デアルカ、國民ノ希望ヲ申シマシマスレバ、此稅制整理ト云フコトガ符モ形式的ノ改革ニ止マルト云フコトハ望マナイノデゴザイマス、煩雜ナル制度ノ下ニ紛糾錯雜ヲ極メテ居ルコトコロ日本ノ租稅制度ハ、根本的カラ之ヲ改革ヲ致シテ、而シテ國民ノ苦痛ヲ減ルト云フコトヲナケレバ、國民ト云フモノハ稅制整理ノ目的ヲ達スルコトハ思ハナイ、即チ政府ノ稅制整理ガ若シモ姑息的ニ小刀細工の止ムル如キコトデゴザイマスナラバ、決シテ國民ハ之ニ満足スルコトハ出來ナイノデゴザイマス、議會ニ向テ公約シタカラ、免ニ角稅制整理ヲ行ハナケレバナラヌ、斯ウ云フコトヲメニ唯形式的ニ、申譯の、小刀細工の、改革ヲ加ヘラレルト云フコトノ如キハ、國民ノ方ハ之ヲ排斥スル、根本ニ於テ此稅制ノ改革ヲ行フト云フコトヲナケレバ、國民ノ目的トスル稅制整理ノ希望ト云フモノヲ達スルコトハ出來ナイノデアリマス、政府ハ果シテ此國民ノ意志ニ副ウテ、根本的ノ改革ヲ施スト云フ御精神アルヤ否ヤ、唯形式的ニ枝葉ノ改革ヲ施スト云フガ如キ御精神アルヤ否ヤ、是ハ國民ノ輿望ヲ空シウスルモノト見ナケレバナラヌ、此故ニ本員ハ第二段ニ於キマシテ、稅制整理ニ對スル政府ノ大方針ハ如何デアるかト云フコトヲ御尋致シタイノデゴザイマス、本員ノ質問ノ要點ハ先ツ斯様デゴザイマシテ、其次ニ序ニ御尋致シテ置キタイト思ヒマス、昨年ノ議會ニ於テ大藏大臣ノ公言セラレタルコトコロニ依リマスレバ、此稅制整理ハ先ツ二年以内ニ於テ審查ヲ遂ゲテ、之ヲ實行スルコトヲ見込デアルト云フ御說明デアッテ、サウ致シマスレバ、稅法改革ニ關スル法律案ハ、次ノ議會ニハ必ず之ヲ提出セラレベキ責任ガアルト本員ハ思フノデアル、此點ヲ確メテ置キタイ、即チ第二十四議會ニ於キマシテハ政府ハ果シテ此稅制改革ニ關スル法律案ヲ提出セラレルトコロノ見込アルヤ否ヤ、是ハ第三ニ私ガ御尋致シタイ要點デゴザイマス、ソレカラ序ニ私ガ御尋致シタイハ豫算委員會ニ於キマシテ、大藏大臣ノ言明セラレタルコトコロニ依リマスレバ、政府部内ニ於テ此稅制ノ審查ヲセラレテ、其審查ト云フモノハ大體ハ結了ヲ告ゲタト云フ意味ニ私ハ承リマシタ、此審查ガ結了致シタト云フモノハ、大體ニ於キマシテ其審查ヲセラレテ結果ヲ國民ニ向テ公ケニ示サレタルト云フコトハ、私ハ官民共ニ將來ノ研究ニ對シテ非常ニ利益アルコトヲアラウト思フテ居ル、是ハ私共ノ希望デアリマス、大藏大臣ハ果シテ此審查ノ結果ヲ國民ニ對シテ公表セラレルトコロノ意ガアルヤ否ヤ、之ヲ一ツ御尋致シテ置キタイト思ヒマス、モウ一ツハハリ豫算委員會ニ於キマシテ、大藏大臣ノ言明セラレタルコトコロニ依リマスレバ、此稅法ノ調査ニ關シテハ此上更ニ特殊ノ調査機關ヲ設ケテ、大藏省ノ取調ベタモノモアルケレドモ、更ニ特別ノ機關ヲ設ケテ調査ヲ致シタイト云フ風ナ意味ヲ述ベラレタノデアル、是ハ稅法ノ調査ニ關シテ慎重ノ研究ヲスルコトヲ御精神ノ上カラ、左様ナル考ヲ持テ居ラレルト、本員ハ確信ヲ致シマスガ、其特殊ノ調査機關ト云フモノハ、如何ナル組織ノ下ニ之ヲ設置セラレルト云フ御考デアルカ、此事ヲ最後ニ御說明ヲ願ヒタイノデアリマス、問題ハ頗ル重大デゴザイマスケレドモ、私ノ尋ネマスルコトコロノ要點ハ右様ナコトデゴザイマシテ、今日カラノコトデゴザイマスカラ、私ハ簡單ニ其要點ヲ述ベマシテ、大藏大臣ノ說明ヲ煩シタイト思ヒマス

〔大藏大臣法學博士阪谷芳郎君登壇〕

○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 唯今ノ早速君ノ御質問ニ御答致シマス、政府ニ於キマシテハ稅法整理ノ結果ヲ次ノ議會ニ提出致シマスル考ヲ唯今持テ居リマス、其方針ハ根本的ニ改革スルノデアルカ、或ハ唯普通ノ改正ニ止マルカト云フ御尋致シマスガ、是ハ政府デハ種々ナ方面カラ研究致シテ居リマシテ、未ダ何レノ案ヲ提出スルト云フコトニ決シテ居リマセヌ、尙ホ十分ニ調査ヲ遂ゲマシテ、出來得ル限リ稅法ノ改良

ニナリマスルヤウニ努メマスル積リテゴザイマス、併ナガラ前議會アモ申述ベマシタ如ク、歳入ノ減少ヲ來タス如キ改正ハ到底ムツカシイ、即チ今日ノ日本ノ財政ノ狀況ニ於テ收入ヲ減ズルト云フ意味ノ改正ハ、是ハムツカシイト云フコトヲ申シテ置キマシタガ今日モ尙其事ハ繰返シテ置キマス、ソレカラ政府ハ唯今出來テ表致シマセヌ考デゴザイマス、如何トナレバ政府ノ未ダ意志ノ決定致シマセヌノガ、世間ニ出マシテモ唯徒ニ迷ヲ惹起スノミデ益ガアルマイト考ヘマス、是ハ尙十分ニ熟慮シマシテ略、政府ノ意志ノ極リマシタ以上ニアラザレバ公表致シマセヌ積リテゴザイマス、ソレカラシテ私ガ尙モウ一遍調査會ニ附スルト云フヤウナ意味ヲ豫算委員會言ハタト云フ御尋テゴザイマシタガ、是ハ如何ナル組織ニスルカト云フマデハ考ヘテ居リマセヌ、唯、今出來テ居ル調査會ハ單ニ大藏省部内ノ高等官ヲ集メマシテ、組織シタ委員會ノ調アルカラ今少シク範圍ヲ擴メテ意見ヲ徵シテ見タイ、而シテ政府ノ意思ヲ決定シタイト云フ考ヲ有テ居ル、斯ウ云フコトヲ申述ベマシタノデゴザイマシテ、其調査會ノ組織等ノコトニ付イテハ未ダ具體ニ考ヘテ居リマセヌ、單ニ此大藏省ノ部内ヲ組織シタケノモノヨリモ、今少シク範圍ヲ擴クシテ意見ヲ徵シタイト云フ考ヲ有テ居リマセヌ

○早速整爾君 次ノ議會ニ稅法ノ改正案ヲ御提出ニナルト云フ御考デアリマスカ
○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 次ノ議會ニ提出致シタイト云フ考ヲ有テ居リマス

○議長(杉田定一君) 日程第一、租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律案第一讀會ノ續委員會長海野謙次郎君報告

第一 租稅其他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長)

○海野謙次郎君 租稅其他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、此案ニ付キマシテハ政府委員ニ質問ヲ致シマシタガ、此理由書ヲゴザイマスル臺灣、韓國、關東州其他ニ近來移住致シマスル者ガ追々殖エテ來マシテ、尙將來續々殖エルト云フコトニナリマス、此徵收處分ニ關スル方法ガナクレバ此租稅ヲ取ルト云フコトニハ非常ナ困難ガアルト云フコトデ、委員會ニ於キマシテモ此法ハ最モ必要ト云フコトヲ認メマシテ、簡單な法律案ヲゴザイマセヌ、直チニ全會一致ヲ以テ此法案ヲ可決致シマシタ、此段報告ヲ致シマス

○議長(杉田定一君) 別段御議論モナイヤウデアリマセヌ、採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス

○恆松隆慶君 直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ省略シテ確定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 恆松君發議ノ通り直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ省略シテ確定スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス、委員長報告通御異議アリマセヌカ

租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律案 確定議

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス、是ニテ本案ハ確定ヲ致シマシタ、日

程第二、第三、第四ハ同一ノ委員ニ付託セラレタルニ依リ、合セテ委員長ヨリ報告ヲサレマス、委員長佐々木正藏君

〔佐々木正藏君登壇〕

○佐々木正藏君 統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律案外二件ノ委員結果ヲ御報告申シマス、本案ハ此表題ノ如ク統監府及關東總督府又是ニ附屬致シテ居ルコロ官署ニ在勤致シテ居ル判任以上ノ恩給又ハ遺族扶助料ノ年限加算法ノ法律ヲゴザイマス、是ハ既ニ臺灣ノ樺太トニハ此法ヲ施イテアルデアリマシテ、即チ三年以上勤續シテ居ル者ハ一箇月ニ對テ半箇月ノ加算ヲスルト云フ方法ニナツテ居ルデアリマス、ソレ故ニ臺灣及樺太同様ニスルト云フ案ニナツテ居ルデアリマス、尤モ臺灣ノ方ニハ是レ以上ニ風土病又ハ流行病ニ罹ル場合ノ特典ガアルデアリマス、又此處ニ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クト云フコトガ書イテアルマシタガ、是ハ即チ在官ノ朝鮮政府ニ雇ハレタ者、又ハ在官ノ僑民、滿鐵會社ノ役人トナツタ者、是ニハ此加算法ヲ適用スルノ必要ガナイト云フコトデ、是ニ除イテアル譯デアリマス、故ニ委員會ハ二回開キマシテ本案ヲ可決シタ譯デアリマス、此次ノ統監府關東都督府及樺太ニ在勤スル巡查看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案是モ同様デゴザイマシテヤハリ臺灣ニ既ニ此法ヲ施イテアルマシラシテ、臺灣同様ニ致シタイ、無論風土病云々ノコトハ之ヲ除イテアルデアリマス、ソレカラ第三番目ノ韓國ニ在勤スル居留民團立在外指定學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案、是モヤハリ臺灣同様ニ一箇月ニ對シテ半箇月ノ加算ヲスルト云フ法律デアリマス、三案共ニ是ハ此通ナツタガ即チ穩當アルト云フコトデ、之ヲ可決シマシタ譯デアリマスカ此段報告致シマス

○議長(杉田定一君) 日程第二統監府關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律案ノ第一讀會ノ續ヲ議題ト致シマス

第二 統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長)

○議長(杉田定一君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス

○恆松隆慶君 直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ省略シテ確定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 恆松君發議ノ通り直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ省略シテ確定スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス、委員長報告通御異議アリマセヌカ

統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律案 確定議

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス、是ニテ本案ハ確定致シマシタ、日程第三統監府關東都督府及樺太等在勤巡查看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案第一讀會ノ續

第三 統監府及關東都督府等在勤巡查看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助 第一讀會ノ續(委員長)

○議長(杉田定一君) 別段御議論モナイヤウデアリマスルテ採決ヲ致シマス、本案ハ二讀會ヲ開クニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス
○恆松隆慶君 本案ハ直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ省略シテ確定セラレシコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 恆松君發議ノ通り本案ハ直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ省略シテ確定スルニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス、委員長報告通御異議アリマセヌカ

統監府關東都督府及樺太在勤巡查看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助ニ關スル法律案 第一讀會ノ續(委員長)

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス、是ニテ本案ハ確定致シマシタ、日程第四韓國ニ在勤スル居留民團立在外指定學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案、第一讀會ノ續

第四 韓國ニ在勤スル居留民團立在外指定學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案 第一讀會ノ續(委員長)

○議長(杉田定一君) 別段御議論モナイヤウデアリマスルテ採決ヲシマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス
○恆松隆慶君 是モ直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ略シテ決定サレシコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 恆松君發議ノ通り直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ略シテ確定スルニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス——委員長報告通御異議ハアリマセヌカ

韓國ニ在勤スル居留民團立在外指定學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案 確定議

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、是ニテ本案ハ確定ヲ致シマシタ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○三輪猶作君 日程變更ヲ求メマス、此際國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法律案ヲ委員會ノ結果ヲ御報告申上ゲタイ
〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 此際國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法律案ノ委員會ノ報告ヲ爲シ、併セテ日程變更シテ、會議ニ付スルト云フ動議デアリマス
○三輪猶作君 左様デゴザイマス

○議長(杉田定一君) 右ノ發議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス——三輪猶作君
〔三輪猶作君登壇〕

○三輪猶作君 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過ト、結果ヲ御報告申上ゲマス、此委員會ハ本日開會ヲ致シマシテ、政府委員ニ種々質問ヲ致シマシテゴザイマス、此案ニ對シマシテ國庫ノ損失トナリマス金額ハ、格別大シク金額デナイト云フコトノ報告ヲ得マシタ、尙委員會ハ經濟上ノ進運ニ伴ヒマス必要ナル議案ト認メマシテ、全會一致ヲ以テ之ヲ可決致シマシタ次第デゴザイマス、此段御報告ヲ申上ゲマス
○議長(杉田定一君) 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法律案ヲ議題ト致シマス

國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法律案 第一讀會ノ續(委員長) 律案(政府提出)

○議長(杉田定一君) 本案ノ二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス
○恆松隆慶君 直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ略シテ確定セラレシコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 恆松君發議ノ通り直チニ二讀會ヲ開キ、讀會ヲ省略シテ確定スルニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス、委員長報告通御異議ハアリマセヌカ

國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法律案 確定議

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、是ニテ本案ハ確定致シマシタ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○長谷場純孝君 此場合ニ日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、森林法案ヲ豫テ政府ガ貴族院ニ提出シテアッテ、貴族院ハ多少ノ修正ヲ加ヘテ回附サレタト云フコトヲ先刻議長カラ御報告ニナリマシタ、議會切迫ノ際デゴザイマスカラ、日程ヲ變更シ、直チニ二讀會ヲ開カレテ、サウシテ議長指名十八名ノ委員ニ付託サレシコトヲ提議致シマス
〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 長谷場君ノ發議ノ、此際貴族院ヨリ回附セラレタル森林法案ヲ、日程ヲ變更シテ會議ニ附シ、而シテ本案ヲ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルト云フニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、長谷場君發議ノ通り日程ハ變更セラレマシタガ、即チ發議ノ通り御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

森林法案(政府提出、貴族院回附) 第一讀會

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、十八名ノ委員ハ議長指名ト云フコトニ決シマス——日程第五、米國「セーラムスタウン」博覽會出品國庫補助ニ關スル建議

案ヲ議題ト致シマス、委員長島田二郎君

第五 關スル建議案(村松愛藏君外七名提出)

(委員長報告)

○小河源一君 請願委員ノ五分科會ヲ開キマスカラ、御許可ヲ願ヒマス
○議長(杉田定一君) 請願委員會ノ五分科會ヲ開キマスヲ、請求ガアリマスガ、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシノ聲起ル)

○議長(杉田定一君) 御異議ハナト認メマス

○小河源一君 ドウカ委員ノ諸君ハ委員室ニ御集リヲ願ヒマス

○島田二郎君 委員會ノ報告ヲ致シマス、本案ハ米國ノ都府ノ「ゼームスタウン」ニ博覽會ヲ開キマスコトニ付イテ、國庫ノ補助ヲ請フノ建議案デ、一回委員會ヲ開キマシテ、サウシテ政府委員ト懇切ニ問答ヲ致シマシタ上ニ、全會一致ヲ以テ之ヲ可決シマシタノデ、ソレ故ニ茲ニ至リマシタ理由ノ概略ヲ申上ゲマス、「ゼームスタウン」ニ開カントスル博覽會ハ其地勢ハ餘リ世ニ聞エテ居リマセヌノデ、是マデノ聖路易トカ或ハ紐育ニ開キマシタヤウナ、世間ニ餘リ名ヲ知ラレヌ場所デアアルガタメニ、是マデ國人ノ注意ヲ惹カマデ居リマシタ、併ナガラ其由來ヲ承テ見マシタ後、極メテ著名ナ地デゴザイマシテ「イスパニヤ」トカ、諸國ノ人が亞米利加ニ參リマシタ後、英吉利人ガ始メテ「即チ英語ヲ話シマス、國民ガ初メテ亞米利加ノ大陸ニ上陸シマシタ地デ、言ハシ今日盛大ナ合衆國ノ基ヲ置キマシタ地デアリマス、之ニ三百年ノ紀念ノタメニ開ク博覽會デアリマシテ、米國人ハ此理由アルガタメニ極メテ重キヲ以テ此博覽會ヲ企テマシタ、之ガタメニ政府ハ陸海軍ノ人ニ參會シテ貫ヒタイ、殊ニ艦隊ニ來テ貫ヒタイト云フ照會ガアツテ、是ニ政府ガ應ズルコトニナリマシテ、總豫算ノ中ニ八十万圓アルト云フ金額ガ載テ居ルノハ此タメデ唯今日日本ノ軍艦ガアラニ參ル途中ニアルノデ、斯ウ云フコトデ、列國ノ艦隊並ニ陸軍ノ方デモ往キマシヤウナ譯テ、殊ニ三百年ノ紀念ノタメニ開ク博覽會デアリマスカラ、歴史ノ物品ヲ集メル、又教育ニ關係シタモノヲ特ニ集メル、又此土地自ラハ餘リ大ナル土地デアリマセヌガ、此理由ノタメニ並ニ其近傍ニ紐育、「ヒラデルヒヤ」等ノ人口ニ於テモ繁盛ナ地ヲ控ヘテ居リマスルガタメニ餘程多數ノ人が集マルデアラウ、特ニ日本ノ艦隊ノ到ルト云フコトニ付イテハ、米國ノ人が名譽アルトコロノ日本ノ艦隊ヲ迎ヘヤウト、皆非常ニ待テ居ルト云フコトデ、亞米利加政府ハ日本ノ出品ヲ望ムテ居テ、我大使館ヲ經テ此事ヲ請求セラレマシタガ、故アテ農商務省ハ之ニ與ラヌコトニ議ノ決シタモサウデゴザイマス、是ハ委員會ノ席デモ審カニ承リマシタノデ、之ニ向テハ之ニ類似シタモノニモ與ヘヌト云フ例モアルト云フノデ、農商務省ハ之ニ應ズナイコトニナツタ、併ナガラアチラノ事情ヲ承テ見ルト、極メテ惜シイヤウナ感覺ガアツタ、ソレハ他ノコトデモゴザイマセヌガ、今申シマシタヤウナ合衆國ニ取テハ極メテ大切ナル紀念、三百年ノ紀念、初メテ英語ヲ話シマスル國民ガ上陸シタトコロノ三百年目ノ紀念會デゴザイマスルノト、並ニ東部ノ繁盛ノ市府ガ近傍ニ在ルト、殊ニ日露ノ戰ノトキニ此近傍デ日露ノ大使應接シタト云フコト、日本ノコトニ付イテハ大ニ歡迎スルトコロノ意氣ガ熾ンダサウデアリマス、是ニ於テ此商機ヲ見込シテ紐育ニアリマスルトコロノ亞米利加ノ商會、東洋ニ多クノ出店ヲ形ガテ居リマス商會ガ、日本ノ出品ヲ一手ニ請負ツテ、サウシテ之ヲ展覧ニ供サウト云フ難イ機會ト思フテ、日本ノ品物ヲ亞米利加商會ノ手ヲ經テ出品スルノモ、寧ロ及バダケ日本デカラ盡シテ、日本人自ラ出品店ヲ開イタ方が、餘程日本ノタメニ宜カラウ、特ニ此意ノ熾ニナリマシタ理由ハ、一方ニ八十七萬圓ノ軍人ノ被方ハ參リマスルトコロノ費用ヲ出シテ、ソレニ日露ノ戰ニ於テ大ニ世界ノ注意ヲ惹イタルトコロノ名譽アル軍艦ガア

チラハ參リマスルノデアリマスルカラ、他ノ軍艦ヲ見ルヨリモ、他ノ軍人ヲ見ルヨリモ、特ニ日本ノ軍人日本ノ軍艦ヲ見タイト云フヤウナ氣合ニナツテ居ルノデアアルカラ、此時ニ日本ノ他ノ平和ノ物品ト云フモノガ餘リ手ガ揃ハヌト云フコトハ、見ルモノヲシテ日本ハ唯武ノミ發達シテ、他ノ方面ニ於テ甚ダ欠缺ケテ居ルヤウナ感覺ヲ懷カセルト云フコトモ惜シイコトデアアルカラ、是非及ブダケカラ盡シタイト云フノデ、在留本邦人ガ此事ニ付イテ奔走ヲシテ、盡力ヲシテ遂ニ政府ニ請ハントスル運動ガ起ツタノデ、政府ニ於テモ初メ是ニ意ヲ注グト云フコトデアラナラバ、總豫算ノ上ニモ出テ參リ、國內ノ人ヲモ促シテ度釣合ノ取レル趣向モ出來タデアラマセヌガ、前申ス通り政府ニ於テハ是等ノコトハ實ハ從來ノ例ノアルコトデ、博覽會ニ意ヲ注ガズシテ打過ギタト云フヤウナ譯テ、此ノ如キ形勢ニ至ラヌデアリマス、ソレ故ニ政府ノ意志ハ、今時ガ既ニ後レテ、居ルカラ今此計畫ヲ立テモ相當ナル準備ガ出來マイト云フ、此點カラ不同意ヲ表セラレルノデアツテ、其事自ラニハ政府モ吾々ノ考ヘル如ク、又此ノ如キ事實ヲ知テ居リマスルモノ、考ヘル如ク、政府モ同情シテ居ラル、ノデアリマス、今日ニ於テ如何ト云フダケノ疑點ヲシク、懇切ナル問答中ニ委員會デ政府ノ意志ヲ聽キマシタ、併ナガラ之ニ付イテハ尙第二段ノ疑點ト云フノハ、從來此ノ如キ博覽會ニ出品致シマスルニハ、商人デモナク、工業者デモナクシテ、唯博覽會ノ事務ニ付イテ通曉シテ居ルト云フ一種ノ人物ガアリマシテ、是ガ政府ト眞ノ出品者、眞ノ工業者ノ間ニ立テ、サウシテ手數料ヲ取テ補助金ヲ仰イテ、其補助金ハ眞ノ出品者ノ利益トナルトコロガ思フ如ク多カラヌト云フ弊ガアルタメニ、政府ハ今急遽ニ是ヲ企テ、モ其弊害ヲ防グコトガ出來ズシテ、希望ヲ遂ケラレマイト云フ疑點ガアルラシク聽イテ居リマス、本員並ニ提出者、殊ニ委員ニ舉ゲラレタトコロノ人ハ、此懸念ノタメニ十分是等ノ事實ヲ調ベテ見タトコロガ、是等商工業者ニアラザルトコロノ者ノ出品者ニアラザルトコロノモノハ、一人モ加テ居ラズシテ、斯ノ如キ事情ガ生ジタト云フコトヲ確メ得タガタメニ、全會一致ヲ以テ然ルコトヲ可決シタノデアリマス、其額モ極メテ少ナイノデ、五萬圓乃至八萬圓位ノ金デ然ルコトデアリマス、一個ノ商會ニ致シマシテモ、斯ノ如キ機會ヲ捉ヘテ其邦ノ品物ヲ出スト云フコトニ付イテハ、斯ノ如キ少額ノ廣告費ヲ惜マヌノハ常デアリマスルシ、一方ニハ誠ニ微力デ思フ儘ニ往カヌトコロノ商品工業品ヲ陳列スルト云フコトハ、國ノタメニ餘リ惜ムベキコトデアアルカラ、丁度雙方相副フタト云フ譯ニ往カズトモ、及ブダケカラ盡シタラ宜カラウト云フ意味デ、全會一致致シマシテ「異議ナク」之ヲ可決致シマシタ譯デアリマス、金額モ此ノ如ク少ナク、事實モ此ノ如ク調ベ得タ上、政府モ絕對ノ反對ニアラズシテ、唯時期如何ト云フコトガ疑點ヲシク見受ケテ居リマスルタメニ、時期ハ此ノ如クデアリマシテモ、今カラ力ヲ盡シマシタラ決シテ時期モ間ニ合ハヌト云フヤウナコトナイコトヲ、委員會ヲ確メ得タタメニ、委員會ハ全會一致ヲ以テ可決致シマシタデアリマス、其通り通過セラレントコロヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 別段御議論モナイヤウデアリマスル採決致シマス、委員長報告通り御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ハナト認メマス、是ニテ本案ハ確定致シマシタ

○荒川五郎君 公共團體課稅ニ關スル特別委員會ハ唯今漸ク結了致シマシタ、緊急問題トセラレテデアリマスルカラ、直チニ茲ニ報告スルコトヲ許サレタウデアリマス

(贊成ノ聲起ル)

○議長(杉田定一君) 御報告ニナルヤウニ

○荒川五郎君 公共團體ノ課稅ノ制限ニ關スル法律案ノ委員會ハ前後二回開キマシテ、種々ナ質問又審議モ經マシタノデアリマスルガ、全體此非常特別稅法第二十

二條、第一項、二項ニ於テ制限ヲ設ケタノハ、一時非常特別稅法ノ通過條件ニモ
ナラズ居ル、ソレヲ無制限ニ許可權ヲ開クコトハ、詰リ無制限ノ増稅ヲスルコト云フ
ウナ嫌ニモナルト云フ意見モアリマシテ、段々ツレ等ノ邊ノ質問ガ出マシタコトガ、其點
ニ付イテ内務大臣兩省政府委員ノ説明ガアリマシタ上、將ニ大藏大臣ノ出席ヲ求メ、其點
其管轄ヲ聽キマシタ、此本案特別ノ必要ガアル場合ニ限リシテアラス、若シ其制
限内テ押ヘテ置イタラバ、制限ヲ超ヘテ費用ヲ取ツタヨリモ、尙ヨリ多クノ不幸迷惑ヲ
公共團體ニ與ヘル例ヘバ「ベスト」ノ如キ、病氣ガ起キタメニ、是ヲ撲滅スル費用ガナ
ガタメニ、其町村ノミナラス他ニマデモ蔓延サセテ、國家ノ害ヲ來スト云フヤウナ場合ニ
ハ、制限ヲ超ヘテ費用ヲ取ツテモ、ソレヲ撲滅スルコトハ公共團體ノ務テ、國家ハサウナ
クテハナライコトナル、斯様ナル極ク特別ノ場合ニ限リテハ、制限以上三厘ヲモ課稅ヲ
スルコトガ出來ルト云フ範圍ヲ置イテ置カケレバ、實際ノ上ニ或ハ町村ガ荒廢ガ致シ、
或ハ町村ノ活動ヲ止メルト云フヤウナ公共團體ノ活動ヲ止メルト云フヤウナ場合ガアル
左様ナ場合ニ於テ制限ヲ超過スルコトヲ得サウ、ソレモ公共團體ノ勝手ニシテハイカ
イカラ、内藏兩大臣ノ許可ヲ得テスル、併シ内藏兩大臣ノ許可ヲ得テシマシテモ、
是亦無制限ニ許可スル、幾何デモ許可ガ出來ルト云フコトハ甚ダ宜シクナイデ、其邊ニ
付イテハ政府ハ許可スベキ範圍ヲ如何ナル點ニ定メルカ、如何ナル方針ヲ以テ許可ス
カト云フコトノ質問ニ對シテ、大藏大臣ハ勿論非常特別ノ場合ニ限リテ許可スルノアルケ
レドモ、ツレモ、無制限ニ許可スル譯デハナイ、凡ソ從前ノ五割ト云フモノヲ範圍ト致シテ其
範圍内ニ於テ其事項其事情ニ依リテ許可ヲ致スト、斯ウ云フコトヲ大藏大臣ノ明言ガ
委員會ニ於テゴザイマシタ、尙大藏大臣ハ本會ニ於テモ此事ヲ明言スルト云フコトヲ約ガ
レマシテ、委員會ハ多數ヲ以テ本案ヲ通過スルト云フコトニ決シマシタ、此段御報告致
シマスル、ドウカ直ニ讀會ヲ省略シテ此際ニ審議セラレンコトヲ望ミマス

テハナラヌノデアリマス、萬已ムヲ得ザル場合ニ認可致スノデアゴザイマスカラ、凡ソ五割ヲ
標準ト致シマシテ認可ヲ與ヘルト云フコトヲ茲ニ明言致シテ置キマス
〔採決ト呼ブ者アリ〕
〔合田福太郎君登壇〕

○合田福太郎君 私人本案ニ付キマシテ修正ノ意見ガアリマスカラ、修正ノ意見ヲ大
要述ベシテ諸君ノ御清聽ヲ汚シマス、此案ハ本會内務大臣兩省ノ政府委員カラ精
明ヲサレマシタ、尙委員長カラモ辯明ヲサレマシテ、大體能ク意志ガ徹底シテ居ルヤウデ
ゴザイマスガ、此案ガ總體ノ上カラ觀察シマスル極ク單純ノ問題ノヤウデ、其實ハ非常
ニ重大ナ案カラウト思フノデ、何故ニ之ハ重大ナ案デアルカト云フ、元ト此非常特別
稅ヲ制定致シマス時分ニ其中テ最モ地方ノ負擔ヲ重クシマシタノハ地租デ、此地租ヲ二
分五厘ヨリ増加シマシテ、現在ノ非常特別稅ハ五分五厘ニナリテ居ル、此地租ヲ倍
層以上ニ増加致シマシタメニ負擔者ノ苦痛ヲ減ズルト云フ趣意デ、地方ノ負擔ヲ府
縣稅ニ在テハ五十錢、町村費ニ在テハ二十錢ヨリ上ニ制限ヲ超スコトハ出來ラレヌト云
フコトハ、非常特別稅ノ第二十二條中ニアルノデ、殊ニ其中テ地方ノ行政上ニ付イテ
財源ノナイコトヲ憂ヘマシテ、或ハ復舊ノ工事デアルトカ、土木ノ工事デアルトカ、或ハ治
水デアルトカ、或ハ府縣村債デアルトカ云フ舊債ヲ償却スルカト云フ途ニ於キマシテハ、
尙超過スル途ヲ開キマシタケレドモ、其他ニ於キマシテハ此制限ヲ超スコトノ出來ラレ
ヌト云フ一ツノ保障、一ツノ擔保、言葉ヲ換ヘテ言フデ見マシテハ政府ハ人民ニ向ケ
シテ、是ダケノ公約ヲ致シテ置キマシテ、地租其他ノ増稅ヲ致シタノ今日ニ至リマシ
テ吾々カラ考ヘマシテモ、又世間一般カラ考ヘマシテモ、現在ノ儘ハトテモ地方ニ財
源ガアリマセヌカラ、地方行政上ノ財源ガアリマセヌカラ、何等ノ事業ヲ致シマス
ニシテモ、刻下ノ急ニ目下ノ急ニ訴ヘルニシテモ財源ガアリマセヌカラ、何トカ活路ヲ
開カンケレバナラヌト云フコトハ能ク認メテ居リマス、能ク認メテ居リマスガ此案、如クシ
テハ頗ル穩ナラヌト思ヒマス、何故ナラバ此戰後經營ノ途ニ當リマシテ最モ國民ノ決心
ヲ要スルコトハ、私ハ公費ノ負擔ヲラウト思フ、如何ナル人ガ局ニ當リテ現在ノ政治ヲ執
ルニ致シマシテモ、此國民ノ負擔ヲ大決心ヲ與ヘルヨリ外ニ、戰後經營ノ政治口ハ
ナカラウト思フ、然ルニ非常特別稅ノ負擔ヲ負ハナラズ、其他ノ諸稅ノ調査ト云フコトハ未ダ完結
致シマセヌタメニ、國民全般ヲシテ公費ノ負擔ガ幾ラ致シテ宜イカ、又其負擔ノ種類ニ至
テハ如何ルモノヲ幾ラ負擔シテ宜イカト云フコトノ決心ヲ促スコトハ出來ナイノデ、是ハ
甚シイ言葉デ言ヒマスレバ、當局者ノ怠慢カモ知レヌケレドモ、或ル點カラ言ヒマスレバ調
査ガ未ダ行居カヌカモ知レマセヌ、免ニ角政府ガ此稅法ニ關スル調査ヲ完結シマセヌタ
メニ、既ニ中央政府ノ豫算ヲ申スマデモナク、諸君御承知ノ如ク一時ヲ綱鑑シテ
歲出ノ權衡ヲ得ザル豫算ヲ立テルヨリ外ニ任方ガナイコトニナリテ居ル、何故カト云フナレ
バ所謂稅法調査ガ出來ナイカラシテ歲入ノ上ニ於テ確トシテ政治家ノ意見、確トシテ政
治家ノ所見ト云フモノヲ明カニスルコトガ出來ナイカラ、内閣ニ於テモ現在ノヤウナ不完
全ナル豫算ヲ立テラウト思フ、ソレカラ又地方ニ同テモサウデ、地方ニ同テモ今日
既ニ四十年度ノ豫算ガ府縣市町村トモ濟ンデ居リマセウガ財源ガナイ、非常特別稅ノ
メニ制限サレテ財源ガナイカラシテ、地方ガ事業ヲ起スコトガ出來ナイト云フ困難ニ際シテ居
ルト云フコトハ事實デアル、併ナガラ此租稅ノ負擔者ト云フモノハ所謂中央政府カラ徵
收スルモノ、或ハ府縣カラ徵收スルモノ、市町村其他公共團體カラ徵收スルモノデモ出ス
者ハ一八デ、地租ナラバ土地所有者カラ出ス、營業稅ナラバ營業者カラ出ス、所得稅ナ
ラバ所得者カラ出ス、其出ス人ハ一人デアルノニ、取ルコトコトコトコトコトコトコトコト
面カラモ取ルノデアゴザイマスカラシテ、法律ニ於テチヤント負擔ノ制限ト云フモノヲ與ヘテ
置キマセヌト云フコト、地租ニシテ、營業者ニシテ、財產所有者ニシテ、公費ノ負擔ノ範圍ハ
確定シテ居ラヌ位財產ノ安固ヲ取ルモノハナイ、ソレデ政府ガ今日此公費負擔ノ制限ヲ

〔贊成々々ト呼ブ者アリ〕
○恆松隆慶君 ドウカ日程ヲ變更シテ議題トナサンコトヲ望ミマス
○議長(杉田定一君) 恆松君發議ノ通日程ヲ變更シテ本案ヲ會議ニ付スルニ御
異議ハアリマセカ
〔異議ナシ異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス、本案ハ議案トナリマシタ
提出) 公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案(政府
第一讀會ノ續(委員長)

○恆松隆慶君 直ニ一讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス
○議長(杉田定一君) 本案ノ一讀會ヲ開クニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス
○恆松隆慶君 直ニ一讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス
○議長(杉田定一君) 恆松君發議ノ通直ニ一讀會ヲ開クニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直ニ一讀會ヲ開キ全部ヲ議題ニ
供シマス

公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案
第二讀會

○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 唯今委員長カラ御報告ノアリマシタ通ニ、唯
今ノ現行法律ノ上ニ三厘ノ制限ヲ設ケタルト云フ趣意ヲ汲知スルト云フヤウナコトガアッ

公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案
第二讀會

○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 唯今委員長カラ御報告ノアリマシタ通ニ、唯
今ノ現行法律ノ上ニ三厘ノ制限ヲ設ケタルト云フ趣意ヲ汲知スルト云フヤウナコトガアッ

公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案
第二讀會

○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 唯今委員長カラ御報告ノアリマシタ通ニ、唯
今ノ現行法律ノ上ニ三厘ノ制限ヲ設ケタルト云フ趣意ヲ汲知スルト云フヤウナコトガアッ

公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案
第二讀會

○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 唯今委員長カラ御報告ノアリマシタ通ニ、唯
今ノ現行法律ノ上ニ三厘ノ制限ヲ設ケタルト云フ趣意ヲ汲知スルト云フヤウナコトガアッ

公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案
第二讀會

○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 唯今委員長カラ御報告ノアリマシタ通ニ、唯
今ノ現行法律ノ上ニ三厘ノ制限ヲ設ケタルト云フ趣意ヲ汲知スルト云フヤウナコトガアッ

公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案
第二讀會

○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 唯今委員長カラ御報告ノアリマシタ通ニ、唯
今ノ現行法律ノ上ニ三厘ノ制限ヲ設ケタルト云フ趣意ヲ汲知スルト云フヤウナコトガアッ

公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案
第二讀會

○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 唯今委員長カラ御報告ノアリマシタ通ニ、唯
今ノ現行法律ノ上ニ三厘ノ制限ヲ設ケタルト云フ趣意ヲ汲知スルト云フヤウナコトガアッ

解リ法律ヲ出シマシタノハ、先日大藏大臣ガ茲テ辯明サレマシタ、又唯今モ茲テ辯明サレマシタ通り此稅法調査完結マデノ過渡ノ間ノ唯一箇年ノ法律ナンデ、唯一箇年テ稅法ガ調査ガ出來上ツテ、ソレヲ報告シテ諸般ノ法律ガ制定ニナレバ、是ハ自然ニ消滅スル、其一箇年間モ尙現在ノ非常特別稅ノ第二十二條テ忍ブコトノ出來ラレヌコトハ何デアカト云フコトヲ研究セネバナラヌ、縱令政府ガ怠慢ニモシロ、縱令政府ガ行届カヌニモシロ、現在ノ稅制調査ガ終ラナイ中ニ尙一箇年ノ間現在ノ德テ忍ブコトノ出來ラレヌモ、何デアカト云フコトヲ研究シテ、其忍ブベカラザルモノダケ活路ヲ與ヘルト云フコトハ當然デゴザイマスガ、然ラズシテ此通り租稅制限ノ上ノ公約ヲ今日テ解イテ、幾ラデモ幾ラデモ當局者ハ兩大臣ノ手ニ心テ人民ニ負擔ヲサセルト云フコトハ頗ル穩ナラヌ即チ財產所有者ニ不安心ノ傾ガアルト云フコトハ、茲テ斷言スルニ私ハ憚ラヌト思フ、サウシテ此地方ノ狀態ヲ見マスルト今日テハ財源ニ窮シテ、最も地方行政ヲ執ルニ困テ居ルモノハ當局者ノ辯明ヲ聽キマシテモ、亦各地方ノ狀況ヲ見マシテモ衛生費ノ一ツデアアラウ、衛生費ハ慥ニ其一ツデアアラウト云フハ「ベスト」其他ノ流行病ノアリマシタトキニ、實ニ豫防ヲ致シマスルガ財源ナクシテ、費用ガナクシテ困ルカラ、此點ニ付イテハドウシテモ活路ヲ開カケレバナラヌト思ヒマス、ソレカラモウ一ツ困リマスノハ、小學校ノ費用デ、小學校ハ現ニ義務年限モ殖ニテ居リマスガ、地方事業ノ大ナルモノデ、此學校ノ校舍ノ如キ舊來其業ヲ執ルニ耐ヘナイ者デモ、尙修繕若クハ新築ヲスルコトノ出來ナイモノモアリマスカラ、此教育費ト前段申シマシタ衛生費トニ付キマシテハ、何トカ財源ヲ得ルダケノ活路ヲ開イテ置イテ、宜シウゴザイマセウ、其他何等ノ費用ト云フ費目ヲ制定セズシテ、スッポリトサバミ制限ヲ解イテシマフト云フコトハ、地方ノ行政ノ局ニ當ルモノハ、非常ニ便利デアアルカモ、知レヌガ、公費ヲ負擔スル者ニハ土地ノ所有者、營業者、所得稅者ニ付イテハ非常ノ苦痛デアナイカト考ヘマス、此意味ニ付キマシテハ恐ラズ、原案ヲ贊成セラレ、者モ、此案ヲ提出サレタ政府ニ於キマシテモ、御同意デアルト思ヒマス、御同意ナンデアリマスカラ、唯今大藏大臣ガ出マシテ、地租ニアツテ見レバ五十錢ノ上五割ノ二十五錢、合セテ七十五錢、市町村ハ三十錢ノ上五割ノ十五錢合セテ四十五錢ヨリ第一超サスコトハナイ、其範圍内ニ於テ必ズ其豫算ヲ調ベテ事業ヲ調ベテ、緊急已ムベカラザルモノ、外賦課シナイト云フコトデアリマス、此御明言ニ據リマスルト、極意ハ付イテ居ル、唯此處等ノトコロ法律テ極メルト、大藏大臣ノ明言サレタ言質ヲ採ルト、議論ノ岐レル所デアルト思ヒマス、實ハ委員會若クハ本會テ大藏大臣ガ明言サレタ言質ニ依テ安ズルヨリハ、寧ロ此案ノ上ニ修正、法律上テ安心スル方ガ適當デアラウト考ヘル、然レバ此案テ明言サレタ通り、修正シテ置クト云フコトハ、少シモ不穩當デアナイト考ヘル、所ガ又斯ウ云フ議論ガアル、衛生ト教育ノ一ツニ見ルト、其他ノ費用ニハ如何スル、斯ウ云フデアアラウ、其他ノ費用ト云フハドウ云フモノカト云フト、土木復舊費或ハ治水費ト云フモノガ、既ニ非常特別稅ノ法文ノ上ニ上ツテ居ル、ソレカラ舊債ヲ消却スルコトモ上ツテ居ルカラ、此上ノ方云々急務ヲ起ストカ致スコトガゴザイマセウカ、ソレハ一年位位合セル方ガ宜カラト思フ、ソレハ租稅調査會ノ結果ヲ待チ、中央ノ歳入地方ノ歳入共ニ雙方ガ完結シマシテ、立派ニ調査ガ出來テ差遣ケナイト云フ事柄ノ他、制限外ヲ、與ヘル必要ハナイト思ヒマス、ソレテ教育ニシテ差遣ケナイト云フ事柄、或ハ斯ウ云フ論ガアル、教育費ト衛生費トニ置クト、他ノ費用ヲ誇大ニ見積ツテ、サウシテ制限内ニ於テ財源ヲ其方カラ取ツテ、衛生費教育費ヲ膨脹サセテ、制限外ノコトヲ認可シテ來レバソレニ制限スルモノシナイモ同デアナイカト云フコトデアリマス、是ハ或ハ三百ト云ハウカ、百五十文の法文ノ解釋ノ仕方デ、此法ハ急場ニシテ缺ク

ベカラザル者ノ外認可ヲセヌト云フデアリマス、歲計ノ豫算編成ノ上ニ左様ナ一種ノ詐術、一種ノゴマカシヲスルノハ、其案ヲ十分ニ調査シテ左様ナコトノナキヤウニスルノガ、内藏兩大臣ノ行政上ノ監督デアラウト考ヘル、其故ニ此案ニ對シテハ唯今ノ如ク修正ヲ致シマスル一方ニ於キマシテハ、地方ニ於キマシテ積極的方針ヲ執テ、地方ノ事業ヲナスコトノ出來ルヤウニシ、一方ニ於テハ土地所有者、營業者、所得稅納者、是等ノモノニ付イテ財產ノ上ニ安固ヲ與ヘテ、大藏當局者カラ發案シマシタ趣意ヲ行テ尙人民ニ安心ヲ與フル上ニ於テ、實ニ適當ナル方法デアアルマイカト考ヘマス、其故ニ斯ル修正ヲ提出致シマシタ、餘リ長ク述ベマス、却テ何デアゴザイマスカラ、簡單ニ一言シテ置キマス

○神前修三君 議長

○議長(杉田定一君) チョット合田君ニ御尋シマス、斯ウ云フ修正デアリマスカ「公共團體」下ニ「衛生及教育費ニ付テ」ト云フ九字ヲ入レルノデスカ

○合田福太郎君 サウデス

○議長(杉田定一君) 是ニハ定規ノ贊成ガアリマスカ

○議長(杉田定一君) 「贊成々々」ト呼フ者アリ

○議長(杉田定一君) 定期ノ贊成ガアルト認メマス

○神前修三君 議長

○議長(杉田定一君) 藤金作君

○藤金作君 委員會ノタメ都合ガアツテ、取調ガ届カヌア居リマシタカラ演說ハ止メマス

○議長(杉田定一君) 神前君

○神前修三君 漸ク許ヲ得マシタ、私ハ本案ニ對シテ原案ヲ贊成スルデアリマス、原案ニ付キマシテ唯今大藏大臣カラ明言サレタ通り、此制限ヲ緩メマシタトコロガ別段心配ガゴザイマセヌノデ、何トナレバ唯今反對論ノ合田君ヨリ衛生及教育費ニ付テ「下」云フ字ヲ入レルト云フ、此修正ヲ致シマシト云フ説モゴザイマシタ、故ニ反對論者ト雖モ衛生ト教育ト云フコトハ認メテ居ルデアラウト信ジマス、併ナガラ、其衛生ナリ教育ト云フモノ、事實ヲ御承知ナイノデアナイカ知ラヌ、何トナレバ反對論者ノヤウニ言ハレマシタナラバ、此衛生費ナリ教育費ナリハ一時ニ徵收ヲ致シ終ラナケレバイカヌノデ、現在非常特別稅法ノ制限ヲ緩メマストコロニ負債ノ消却ト云フコトガアリマス、ソレハ三十二年以上ノ負債及其利子ノ消却ニ付イテ許スガ、其後ノ負債ハ許サヌト云フコトニ致シテゴザイマス、故ニ今合田君ノ如ク衛生及教育費ヲ入レマシテ、サウシテ之ヲ一時ニ徵收シナケレバ合田君ノ目的ノ通りニ往カヌ、萬一村債ナリ、町村債ナリ、或ハ市債ナリヲ起シテ、一時ニ辨償致スコト云フ便利ノ法ヲ採ルコトガ出來マセヌ、故ニ合田君ノ御修正説ノ如ク、如何ニモ佛作ッテ眼ヲ入レナイト同ジコトニナルト私ハ信ズル、又ソレニ付キマシテ「應」ベスト」即チ傳染病ノ流行ノ狀態ヲ聊カ申上ケヤウト思フ、昨年來「ベスト」流行致シマシテ最も猖獗ヲ極メマシタ當時、一箇町村デ十萬圓モ要ツタ、此十萬圓以上ノ衛生費ヲ一時ニ一箇町村デ負擔サセルト云フコトハ到底出來ル話デアナイカラ、一時借金ヲ致シテ、漸次償却致サセルカ、又或ハ之ヲ數年ニ割テ徵收致スコト云フ一ツノ途ヲ採ルヨリハ致方ガナカラウト思ヒマス、而シテ又此教育費ニ於キマシテモ既ニ文部大臣ハ五十二號ノ勅令ヲ以テマシテ明年度ヨリ義務教育ノ年限ヲ殖ス、此義務年限ヲ殖スト云フコトハ勅令ノ一片テ容易ニ行ヒ得ベキモノデアナイデアリマス、義務年限ヲ二箇年延バスコトニ致シマスレバ、學校ノ校舍ノ延長ヲ致サナケレバナラヌ、然ラバ學校ノ改築ヲ致スカ、或ハ建増シテ致スコトニ致サナケレバナラヌ、是等ノ教育費モ一時ニ徵收

スルコトハ縱令茲ニ書加ヘタトコロガ、容易ニ出來ヌノデアアル、ヤハリ是等モ一時流用シ、何カ都合ヲ致シマシテ、辨償致シテ置イテ而シテ此目的ヲ達シナケレバナヌノデアアリマスカラ、折角合田君ノ修正説ハ誠ニ結構ナヤウデアアルケレドモ、事實ニ於テ何モナリマセヌカラ、私ノ原案ニ贊成スル趣意ハ是ダケヲ申上ゲテ置キマス

○議長(杉田定一君) 討論終結ノ聲ガアリマス採決ヲ致シマス、先ヅ合田君ノ修正ニ付イテ採決ヲシマス、合田君ノ修正ニ御同意ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

起立者 少數
○議長(杉田定一君) 少數、原案ニ付イテ採決ヲシマス、原案ニ御同意ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

起立者 多數
○議長(杉田定一君) 多數デアリマス、原案ニ決シマシタ

○恆松隆慶君 直チニ二讀會ヲ開キ確定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 恆松君發議ノ通り直チニ二讀會ヲ開キ確定ヲスルニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス

○議長(杉田定一君) 二讀會ニ於テ決議ノ通り御異議ハアリマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス、是ニテ本案ハ確定ヲシマシタ

委員第一分科會ヲ開キタイトニ云フコトヲ森君ヨリ請求ガゴザイマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス、北海道函館外四港修築ニ關スル建議案外一件ノ委員會ヲ開キタイトニ云フ請求ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス、北海道函館外四港修築ニ關スル建議案外一件ノ委員會ヲ開キタイトニ云フ請求ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス、北海道函館外四港修築ニ關スル建議案外一件ノ委員會ヲ開キタイトニ云フ請求ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議ナシト認メマス、北海道函館外四港修築ニ關スル建議案外一件ノ委員會ヲ開キタイトニ云フ請求ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

第三讀會

セラレテアリマスガ、本案ハアノ案ト類似致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ其範圍ガ非常ニ違ッテ居ルノデアリマス、私共ハ單ニ鑛物ノ調査ト云フコトダケデアハ満足スルコトガ出來マセヌカ、ソレデアラフ一般ニ總テ鑛業ヲ發達サセルトコロノ方法ヲ政府ニ於テ攻究ヲシテ貫ヒタイト云フコトヲメニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、申上ゲマスマアモナク日露ノ戰爭ノ結果トシテ非常ナ國債特ニ外債ヲ負ヒマシテ、今日財政ノ方デモ甚ダ都合ガ悪ルウゴザイマス、國民ノ負擔モ非常ニ重イノデアリマスカラ、ドウカシテ此際ニ於テハ日本ノ國ヲ十分ニ大キク富マサナケレバナラヌト云フ必要ニ迫ッテ居ルト云フ事柄ハ勿論デゴザイマスガ、唯此國ヲ富マスト云フ方法ガドウデアアルカト云フコトガ、常ニ御互ノ頭ヲ惱シテ居ルトコロノ問題デアリマス、ソコデ私共ハ其點ニ於テ深ク考慮ヲ費シマシテ、其結果日本ノ産業政策ト云フモノハドウシテモ鑛業ト云フモノニ重キヲ置カナケレバナラヌ、鑛業ニアラズンバ大キク國ヲ富マスト云フコトハ進モ出來ルモノデアリマス

フコトヲ確認致シタデアリマス、其確認ヲシタ次第ヲ申上ゲマス、統計ノ表ヲ見マス

云フト第一ニハ米穀ガ生産高ガ多クゴザイマス、其次ハ生絲及絹ノ製造品、其次ニハ綿絲、綿布其次ニ鑛産物ガ參ッテ居リマス、其鑛産物ノ額ハ約一億萬圓ニナッテ居ルノデアリマス、ソレカラ貿易額ノ方デ調整セテ見マス、第一ニハ生絲、絹ノ製品、第二ニハ綿絲、綿布、第三ニ鑛産物ガ來テ居ルノデアリマス、其鑛産物ノ額ヲ見マス

約四千五百萬圓ニナッテ居リマス、斯ノ如キ有様デゴザイマスガ、此生絲、絹製品ト云フヤツハ今日ニ於テハ發展ノ餘地ガ誠ニ少ナイ、隨分今日マデ獎勵モ澤山シテ參リマシテ、發達ヲサセテ參ッタデアラフ、是カラ發達セキ餘地ト云フモノハ誠ニ少ナイデアリマス、綿絲、絹布ノ方ハドウデアアルカト云ヒマス

ト云フト、是ハ原料ガ外國デアラフ悲シイカナ日本ノ國內ニ於テ原料ヲ取ルコトガ出來ナイデアリマスカラ、國內ニ殘ル利益ハ誠ニ少ナイノデアリマス、獨リ鑛産物デゴザイマスガ、此鑛産物ハ即チ原料ガ日本ノ國內ニアルガタメニ幾ラデモ發達スル餘地ガ存シテ居ルノデアリマス、誠ニ天祐デアルト存シマスガ、日本ノ國內ニ於テ鑛産物ニ富シテ居ルコト、云フモノハ實ニ非常ナモノデアリ、此鑛産物ノ中デモ一番澤山ナルモノハ石炭、銅ト云フヤウナモノデアラフ、其銅ノ如キハ今日ニ於テハ世界ノ第一番澤山ナルモノト云フ、次第ナノデアリマス、即チ第一ガ亞米利加合衆國デア、第二ガ墨西哥デア、第三ガ西班牙、葡萄牙、第四ガ濠太利亞、第五ガ即チ日本デア

ル、斯ウ云フ順序ニ相成ッテ居ルノデアリマスガ、殊ニ此銅ノ如キ日本ニ於テハ非常ナ重要ナモノデアリシ、殊ニ此銅ト云フモノハ日本各縣到ルトコロ殆ド地中ニ存シテ居ルト云フ有様デアアルノデアリマス、輸出ノ方ハドウデアアルカト申シマス

ト云フト、石炭ノ方ハ千六百萬圓バカリシカゴザイマセヌカ、銅ノ方ハ二千五百萬圓モアル、斯ウ云フノデアリマシテ、實ニ銅ガ世界ニ輸出セラル、高ハ今日ニ於テ既ニ非常ニ澤山ニナッテ居リマス、ソレ故ニ今日此澤山ノ外貨ヲ負フテ居ルトキノ如キニ至ッテハ、殊更輸出品ノ澤山増シ得ベキ銅ノ如キモノヲ餘程發達サセナケレバナラヌデアラフ、而シテ又發達ヲサセルニ付

イテ十分ノ餘地ガ存シテ居ル、斯ウ云フ有様デゴザイマス、我國ガ此ノ如ク鑛物ニ富シテ居ルニ拘ラズ、今日マデ鑛業ヲ發達シテ居ラナカッタノハ、一體ドウ云フ譯デアルカ、是ハ實ニ日本ノタメニ悲ムベキ事柄デアリマシテ、今日マデ此學問ガ進歩シテ居リマセヌカ

メニ世人ガ鑛業ハ非常ニ危險ナモノデアリト云フ考ヲ持ッテ居ッテ鑛業ニ從事スルモノヲ稱シテ或ハ山師ト云フ名稱ヲ附シテ、輕蔑ヲシタト云フヤウナ形ニナッテ居ル、政府ニ於テモ一向保護獎勵モ致サヌト云フヤウナコトデゴザイマシタカラ、今日マデ更ニ發達スルコトガ出來ナカッタデアリマスガ、此發達スルコトノ出來ナイ有様デ、非常幼稚稚ナ有様デア

ルニ拘ラズ、ドウデアアルカト云フト、唯今マデ申上ゲマシタ通ノ額ヲ今日產出シテ居ルノデ

セラレテアリマスガ、本案ハアノ案ト類似致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ其範圍ガ非常ニ違ッテ居ルノデアリマス、私共ハ單ニ鑛物ノ調査ト云フコトダケデアハ満足スルコトガ出來マセヌカ、ソレデアラフ一般ニ總テ鑛業ヲ發達サセルトコロノ方法ヲ政府ニ於テ攻究ヲシテ貫ヒタイト云フコトヲメニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、申上ゲマスマアモ

ナク日露ノ戰爭ノ結果トシテ非常ナ國債特ニ外債ヲ負ヒマシテ、今日財政ノ方デモ甚ダ都合ガ悪ルウゴザイマス、國民ノ負擔モ非常ニ重イノデアリマスカラ、ドウカシテ此際ニ於テハ日本ノ國ヲ十分ニ大キク富マサナケレバナラヌト云フ必要ニ迫ッテ居ルト云フ事柄ハ勿論デゴザイマスガ、唯此國ヲ富マスト云フ方法ガドウデアアルカト云フコトガ、常ニ御互ノ頭ヲ惱シテ居ルトコロノ問題デアリマス、ソコデ私共ハ其點ニ於テ深ク考慮ヲ費シマシテ、其結果日本ノ産業政策ト云フモノハドウシテモ鑛業ト云フモノニ重キヲ置カ

ナケレバナラヌ、鑛業ニアラズンバ大キク國ヲ富マスト云フコトハ進モ出來ルモノデアリマス

フコトヲ確認致シタデアリマス、其確認ヲシタ次第ヲ申上ゲマス、統計ノ表ヲ見マス

アリマス、而シテ此礦業ト云フモノハ利益ガ無イ有様アルカ、若クハ利益ガアル有様アルカト申シマス、一例ヲ舉ゲテ見マスレバ、小坂銅山ノ如キモノデアッテモ、既ニ一箇年約千万圓ノ純益ガアル、或ハ別子ノ如キ、足尾ノ如キ、銅山ニ於テモ、數百万圓ノ純益ガアルト云フ有様アルカラシテ、其事業ハ利益ノ多イト云フコトハ明瞭デアリマス、ソレデアリマス、政府ニ於テ此際此事業ニ向テ十分ノ保護獎勵ヲ加ヘマス、人民ハ欣シク此事業ニ從事スルコトニナルカラシテ、實ニ其發展ト云フモノハ非常ニ容易クナルコトガ出來ルデアリマス、唯今マデ申上ゲマシタ通ニ今日非常ナ幼稚ナ有様デアラモ生産額ガ一億圓、輸出額ガ四千万圓ト、斯ウ云フデアリマス、是ラ十分ニ發達ラサセマシタナラバ、是カラ五倍ナリ六倍ナリノ額ニ上リ、或ハ生産額ニ於テハ五六億ニナリ、或ハ貿易ノ額ニ於テハ二三億ニナルト云フコトハ出來ヌコトガナイト云フ有様デアリマス、斯ノ如クナリマスルコト云フコトニナルカラ、即チ農産物ヲ除イテハ日本テハ第一ノ生産物トナスコトガ出來テ、是ラ外國ニドンドン輸出スルコトニナレバ、日本ニ正貨ガドンドン這入ルコトニナッテ來ルト云フ形ニナルデアリマス、此ノ如キ次第デアリマス、今日我國ヲ富マスト云フコトニ付イテハ、此礦業ト云フモノノ十分ニ發達ラサセテケレバナラヌコト云フ事柄ハ明カデアラウト存シマス、此ノ如キ次第デアリマス、礦業ヲ十分發達ラサセテケレバナラヌコト云フコト、私共モ絶叫致ス次第デアリマス、此礦業ヲ保護獎勵スル方法ハドウデアラカト云ヘバ、勿論イロ／＼ナ方法モゴザイマセウ、或ハ礦物調査ト云フコトモ、一ツノ方法デゴザイマセウ、又礦業家ニ對シテ資金ヲ貸與スルノ制度ヲ設ケルト云フコトモ、一ツノ方法デゴザイマセウ、又分析ノ場所ヲ設ケルト云フコトモ、一ツノ方法デゴザイマセウ、又礦業ノ學校ヲ設ケルト云フコトモ、一ツノ方法デゴザイマセウ、或ハ又試掘稅ヲ輕減スルコトモ、一ツノ方法デゴザイマセウ、種々ノ方法モゴザイマセウカラ其方法手段ニ至テハ政府ノ方テ十分ニ攻究ヲ盡シテ、サウシテ此事業ニ對シテ十分ノ保護獎勵ヲ加ヘテ、此礦業ト云フモノノ大ニ發達ラサセテナラバ、日本ノ富モ増シ、財政モ豐カニナリ、人民ニ於テモ非常ニ都合ノ好イコトニナラウト思ヒマス、此點ニ向テハ政府ニ於テ深ク注意ヲ拂ハレンコトヲ希望スル次第デアリマス、是ガ本案提出ノ趣意デアリマス

○ 恆松隆慶君 此建議案ハ曩ニ礦物調査委員ト云フモノガ設ケテアリマス、其方ニ附託セラレシコトヲ希望願ヒマス

○ 議長(杉田定一君) 恆松君發議ノ通り本建議案ヲ曩ノ礦物調査委員ニ付託スルト云フコトニ御異議アリマセウカ

○ 議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス——日程第七「ホテル」開設ニ關スル建議案、此案ノ朗讀ハ省略シマス、大戶復三郎君

ホテル開設ニ關スル建議案

近時商工業ノ觀察ニ將タ觀光漫遊ニ外人ノ本邦ニ渡來スルモノ日々益々多キヲ加ニ然ルニ從來旅館ノ設備極メテ不完全ナルカ爲ニ無限ノ趣味ト多大ノ嚮望トヲ齎ラシテ頻繁至リ集シ來レル此ノ外客ヲシテ宿スルニ家ナク泊スルニ所ナク實ニ不自由不便ヲ感セシム是レ豈一大缺點ニ非スヤ然レトモ今日之ヲ獨リ一人若ハ一會社ノ經營ニ委スルモ容易ニ成立セサルノ趣

アルハ政府ハ斷然相當ノ保護獎勵ヲ與ヘ速ニ之ヲ建設セシムルノ手段方法ヲ取ルハ國際上及經濟上頗ル有利ノ事タルヲ信ス

右建議ス

○ 大戶復三郎君 本案提出者ト致シマシテ一應建議ノ趣旨ヲ述ベヤウト思ヒマス、ソレデ本案ノ事柄ガ「ホテル」ト云フ事柄デアリマス、チヨット一見スルコトガ小事ノヤウニ聽エマス、然レ長ク申述ベマセウガ、一通リ趣旨ヲ述ベテ置カスト世間ニ誤解ヲサレテモ困リマス、成ルベク簡明ニ其趣旨ヲ申述ベヤウト思ヒマス、暫ク御清聴ヲ煩シマス、ソレデ近年此歐米清韓等カラ我國ニ來遊シテ居ル外人ハ少ナクナイ、是ハ既ニ諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、殊ニ三十七八年戰役後ニナリマシテハ、外國人ハ我國忠勇ノ精神ト、再轉シテ怪訝トナリ、外國人ハ爭ウテ此忠勇ナル戰勝國ノ勝土ニ接シテ、不思想ナル國民ト握手スルコトヲ熱望シテ居リマス、元來我國ハ風光絶佳デアリマシテ最ト此見物ニ來ル人が多イ中ニ就キマシテ、戰争後右申上ゲマシタヤウナ風ニ我國民ト握手ヲシテ見タイト云フ念勃々ト生ジマシテ、殊ニ我日本國ノ驚クベキ進歩ノ模様、ソレ等ヲ觀察シタイト云フタメニ、近時外國人が我國ニ來遊スル者日々多キヲ加ヘテ居ルコト云フコトハ、爭フベカラサルノ事實デアリマス、試ニ三十八年中ノ來遊外人ハ日程アツカト云フコトヲ或ル調査ニ就イテ見マシタトコロガ、無慮三万六千人ノ多キニ達シテ居リマス、サウ致シマシテ宿泊日數ヨリ延八員ヲ割出シテ見マス、殆ド二十万人ト云フ數ニ達シテ居ル、サウ致シマシテ其外人ガ消費致シテ居リマス、トコロノ金額ハ何程デアラカト申シマス、戰爭以前ニ於キマシテモ既ニ一千五百万圓乃至二千万圓ト云フ巨額ナル金ヲ落シテ歸リ居ル、戰爭後ニ至リマシテハ詳細ニ統計ハナイサウデアリマス、四五千圓ト云フ大シタル金ヲ來遊外人ガ我國ニ消費シテ居ルト云フ計算ニナッテ居リマス、サウ致シマシテ彼ノ旅館ノ設備ガ不十分ナルトコロヨリ、或ハ外人ガ日本ニ參リマシテ、友人ノ家ノ宿泊スル者モアリ、又公使館領事館ニ宿泊スル者モアル、又船舶ニ泊ラテ上陸シテ宿泊ラシナイ外人モ少クナイデアラウト思ヒマス、斯様ナ者ヲ加ヘマシタナラバ、其數ハ多イデアリマセウ、此以外ニ落シテ居ル金モ蓋シ少ナクナイデアラウト考ヘマス、今現ハレテ居ル統計ニ依リマス、今申シタヤウナ次第デアリマシテ、實ニ其金額ハ多大ナルデアリマス、然ルニ或ル調査ニ依リマシテ現在我國ニ設備セラレテ居ルホテルノ若クハ目下設備準備中ノモノヲ除イテ、將來外國人が日本ニ既往ノ統計ニ徵シマシテ來ルトコロノ外人ノ數ヲ割出シテ見ルト、旅館ノ客室ト云フモノガ大變ニ不足スル、或ル調査ニ依リマス、少ナクモ二千室位少ナイデアラウト云フコトデアリマス、既ニ目下ニ於キマシテ設備ノ不十分ナルタメニ、少シモ來遊外人ニ満足ラヘルコトガ出來ヌノミナラス、甚シキニ至テハ宿泊スルニ宿ガ無イ、折角日本ニ來遊致シマシタ外人ガ空シク我國ヲ去ッテ歸ルト云フ者モ數多アル趣デアリマス、又凡ソ日本ニ參リマシテ一箇月若クハ二箇月モ滞在シテ十分ニ見物シテ歸ラウト云フ外人モ、旅館ガナイタメニ一箇月ノ豫定ノ者ハ半箇月、一箇月ノ者ハ一箇月ヲ歸ルト云フコトハ爭フベカラザル事實デアリヤウニ承テ居ル、若シ縱令十分トマデハ參リマセウトモ、旅館ノ設備ガ可ナリ整ヒマスルコトニナリマシタラバ、ドウデアリマセウ、今後來遊スル外人ガ益々増加ラ致シマス、獨リ増加スルノミナラス、一箇月ノ滞在ヲスルモノハ一箇月半ノ滞在ヲスル、一箇月半ノ滞在ヲスルモノハ三箇月ノ滞在ヲスルト云フガ如キコトニナリマシタナラバ、今日我國ニ消費シテ居ルモノノ四千万圓ト云フ金ガ、億方圓ニ達スルコトハ蓋シ困難デアリマス、殊ニ萬國大博覽會ハ既ニ近年ニ迫リ居ルデアリマス、吾々ハ萬國博覽會ニ於テハ、如何ニモ外人ガ數多我國ニ來テ見物シテ與レルコトヲ希望スルデアリマス、然ルニ現在ノ如ク設備不十分デアラウタナラバ如何デアリマセウ、如何ニ來

○ 議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス——日程第七「ホテル」開設ニ關スル建議案、此案ノ朗讀ハ省略シマス、大戶復三郎君

ホテル開設ニ關スル建議案

近時商工業ノ觀察ニ將タ觀光漫遊ニ外人ノ本邦ニ渡來スルモノ日々益々多キヲ加ニ然ルニ從來旅館ノ設備極メテ不完全ナルカ爲ニ無限ノ趣味ト多大ノ嚮望トヲ齎ラシテ頻繁至リ集シ來レル此ノ外客ヲシテ宿スルニ家ナク泊スルニ所ナク實ニ不自由不便ヲ感セシム是レ豈一大缺點ニ非スヤ然レトモ今日之ヲ獨リ一人若ハ一會社ノ經營ニ委スルモ容易ニ成立セサルノ趣

アルハ政府ハ斷然相當ノ保護獎勵ヲ與ヘ速ニ之ヲ建設セシムルノ手段方法ヲ取ルハ國際上及經濟上頗ル有利ノ事タルヲ信ス

右建議ス

遊外人ノ多キヲ欲スルモ、折角日本へ來テモ宿スル旅館ガナイト云フコトニナレバ、其不體裁ハ如何デアリマセウ、獨リ得ルトコロノ利益ヲ失フコトノ多大ナルノミナラズ、戰捷國ト致シマシテ、一躍一等國ノ伍伴ニ列シタル我國ノ品位ヲ保チ、國威ヲ發揚スルト云フ上カラ論ジマシテモ、斯ノ如キ旅館ノ設備ヲ不十分ニシテ置イテハ、如何デアリマセウ、唯今テハ我國ハ光榮アル戰局ヲ收メ、滿韓ノ經營ナリ、鐵道ノ國有ナリ、港灣ノ修築ナリ、苟モ國運ノ發展ニ必要缺クベカラサルコトヲ計畫ハナサレツ、アルデアリマス、然ルニ單リ旅館ノ設備ヲ缺イテ居ルト云フコトハ、諸君如何デアリマセウカ、實ニ遺憾千萬デアリマス、サウ致シマシテ其旅館ノ設備ヲ若シ今日ノ儘ニシテ個人ニ放任シテ置イタラドウトアリマセウ、吾ハ決シテ十分ノ設備ヲ出ルナト思ヒマス、或ハ調書ニ依リマスド、可ナリ萬國博覽會アリニ來ル外人ニ稍、満足ヲ得サセムマデノ設備ヲシヤウト云フナラバ、ドウシテモ千萬圓ノ金ヲ以テ掛リマセウト、其設備ガ出來ナト云フコトヲ承テ居リマス、若シ之ヲ個人ニ放任シテ置クト云フコトニナリマシタラバ、千萬圓ハ愚カ、其半額若ハ三分ノ一ノ設備モ出來マイト云フコトヲ自分等ハ憂ヘテ居ルデアリマス、申スマデモゴザリマセウ、諸君ト共ニ吾ハ此戰後ノ經營トシテ、殖産興業ノ發達ヲ計テ海外ノ貿易ヲ隆盛ニシタイト云フコトハ最モ熱望致シテ居リマスガ、併シ御承知ノ如ク外國貿易ハ昨年ハ意外ニモ輸出超過ガ四百何十方デアリマシテ、非常ナル好結果ヲ見マシタガ、併シ是ハ「簡單々々」ト呼ブモノアリ、必ズ年々サウ云フ當テラスルコトハ出來マイト思フ、シテ見ルト此貿易以外ニ於テ日本ニ金ヲ吸收セントスレバ、何ニ依テ吸收スルカ、所謂來遊外人ニ成ルガケ多クノ金ヲ使ハセルコトガ最モ必要ナルコト、思ヒマス、斯ク申シテ見マスレバ、極小問題ノヤウデアリマスケレドモ、決シテ吾ハ「ホテル」ヲ開設スルコトハ決シテ小問題ナト思ヒマス、殊ニ大博覽會ヲ成功サセルト云フコトハ、旅館ノ完備——設備ノ宜シキヲ得ルト得ヌト大ニ私ハ關係スルコト、思ヒマス、ソレ然ラバ如何ニシタラ宜イカト云フ問題ガ起リマセウガ、固ヨリ此設備ノ方法ニ至リマシテハ種種アリマセウガ、私ノ聞クトコロニ依レバ既ニ大藏省アタリテモ此調査ガ出來テ居ルヤウニ承テ居ル、先ツ内地ニ少ナクトモ外人ノ參リマスル所ハ二十箇所、四十箇所、風光ニ富シテ居ル所ニ宿泊シテ居リマスケレドモ、最初ヨリサウ宏大ナル設備ハ出來マイト思ヒマス、例ヘバ東京ヲ本店ト致シマシテ、重モニ參リマスル所ニ支店ノヤウナモノヲ置イテ設備スル、海外ニ於テハ——例ヘバ韓國ニ於テハ釜山、京城、或ハ滿洲ニ於テハ大連、營口、旅順、若クハ奉天、遼陽ト云フガ如キ所ニ置イテ、サウシテヤル、サウスルニハドウシテモ——一大會社ト云フモノヲ組織致サナケレバナラヌデアアル、民間ノ方デ縱令希望ヲ致シタトコロテ、此ノ如キコトヲヤテ、若シ失敗ニ終アハト云フ心配ガアリマセウ、ドウカ吾等ノ希望スルトコロハ此建議案ニ書イテ置キマシタ通、宜シク政府ハ相當ノ保護獎勵ヲ與ヘテ、サウシテ速ニ之ニ建設セシムルノ方法手段ヲ執テヤテ貫ヒタイト云フコトヲゴザイマス、今茲ニ具體的ニ述ベル案ハゴザイマセウガ、政府ニ於キマシテハ十分御調査ニナッテ居ルサウデスカラ、是ハ吾等議員ニ於キマシテハ、此建議ヲ速ニ容レテ提案シテ貫ヒタイト云フデアリマス

○早速整爾君 質問ガアリマス、唯今ノ御説明ニ依リマシテ建議案ヲ御提出ニナツタ御趣意ハ能ク諒シマシタガ、要スルニ政府ニ向テ宿屋トカ、料理屋トカ——「ホテル」ト書イデアリマスガ、外國人ヲ泊メル「ホテル」ヲ保護シヤウト云フ建議ト見受ケマスガ、ソレハドウ云フ風ニシヤウト云フノカ、モウ少シ承テ見タイト思フ、是マデア「ホテル」ノ事業ヲ營シテ居ルモノニ對シテ金ヲヤル、是カラ「ホテル」ヲ開設スルモノニ——個人ノ「ホテル」ヲ開設スル——宿屋ヲ營ムモノニ金ヲヤル、ソレカラ會社ヲ建テ、一ノ宿屋若クハ料理屋風ノモノヲ設ケヤウトスル、ソレニ對シテ保護金ヲヤルト云フコトニ承レバ宜シイカ

○大戸復三郎君 其方法ニ至リマシテハ、唯今申ス通十分ナ案ハアリマセウガ、免

二角一大會社ヲ組織シテ、サウシテソレニ相當ノ補助ヲ與ヘル、サウスルニハ在來ノ「ホテル」ニ對シテハ、其筋ノ調ニ依ルト、合併サセルト云フヤウナコトガアリマス……

○早速整爾君 サウスルト宿屋ヲスル料理屋ヲスルモノニ、金ヲ與レルト云フ趣意デカス

○大戸復三郎君 免二角其邊ノ趣意デスカラ、ドウカ……

○恆松隆慶君 免二角委員付託ニシテ、十分調査セシムル必要ガアルト思ヒマス、議長指名九名ノ委員ニ付託セラレントウ望ミマス

○反對者 贊成者 又「即決々々」ト呼ブ者アリ

○議長(杉田定一君) 恆松君ノ議長指名九名ノ委員ニ付託スルト云フ說ニ反對ガアリマスヲ採決致シマス、恆松君ノ說ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

起立者 多數

○議長(杉田定一君) 多數——恆松君ノ說ノ通決シマシタ——報告ガアリマス

(書記朗讀)

一 貴族院ヨリ送付セラレタル政府提出案左ノ如シ

關東都督府及駐國駐節軍陸軍軍法會議法案

一 政府ハ市制改正法律案町村制改正法律案ヲ撤回シタル旨貴族院ヨリ通牒アリ

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

國語及字音假名遣ニ關スル建議案

提出者 三輪信次郎君 小川 平吉君 大竹 貫一君

一 花井卓藏君ヨリ對韓政策ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

對韓政策ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

明治四十年三月二十三日

提出者 花井 卓藏 贊成者 小川 平吉

外三十二名

對韓政策ニ關スル質問主意書

一、關稅同盟ハ保護關係當然ノ結果ナリトハ國際法上ノ先例之ヲ證明セリ政府ハ何故ニ日韓兩國ノ關稅ヲ撤廢スルコト能ハサルヤ

二、關稅同盟ハ對韓經營必然ノ要務ニシテ保護政策ノ第一義ナリ政府ハ何故ニ日韓兩國ノ關稅撤廢ヲ斷行スルコト能ハサルヤ

三、帝國カ韓國ニ於テ有スル政治上軍事上及經濟上卓絶ナル利益並ニ帝國カ其利益ヲ擁護増進スルニ必要ナル指導監督及保護ノ權利アルコトハ日英協約ノ承認セル所ナリ政府ハ何故ニ關稅同盟ヲ斷行シ是等利益權利ノ鞏固ヲ保持セサルヤ

四、兩國ヲ結合スル利益共通ノ主義ヲ鞏固ナラシムヘシトハ日韓協約ノ根本義ナリ政府ハ何故ニ經濟共通ノ障礙タル關稅ヲ撤廢利益共通ノ主義ヲ一貫セサルヤ

五、政府ハ動モスレハ機會均等主義ヲ云爲シテ自ラ帝國ノ韓國ニ對スル卓越權ヲ無視セントスルモノニ似タリ政府ハ何故ニ卓越權ヲ辭讓スルノ態度ヲ採ルヤ又何故ニ國際法上並條約上保護ノ關係ヲ否定セシトスルヤ

右及質問候也

○議長(杉田定一君) 議長指名ノ委員、及次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後二時五十一分散會

谷中村枉法破壞ニ關スル島田三郎君ノ質問參考書

(參照) 訴願書

栃木縣下都賀郡藤岡町大字内野百四十四番地
平民農
島田 政五郎
外三十七名

一定ノ申立
明治三十九年四月二十一日下都賀郡谷中村長職務管掌下都賀郡書記鈴木三ガ訴願人島田政五郎外三十七人ニ對シ發シタル各徵稅令書ハ之ヲ取消スト御裁決相成度候

事實及理由

下都賀郡谷中村明治三十九年度歳入出豫算表中歳入ノ部合計ヲ閱スルニ金六万七千〇八拾參圓六拾貳錢貳厘トアリ又歳出合計ヲ閱スルニ金壹萬六千九百九拾貳圓貳拾參錢トアリ右歳入金ヨリ歳出金ヲ除クトキハ其差金六万六千九百九拾四圓參拾九錢貳厘ニ相成候而シテ下都賀郡谷中村長職務管掌下都賀郡書記鈴木三ガ明治三十九年四月十五日ノ同村會ニ提出シ可決相成タル第二號議案中下都賀郡谷中村負債ノ部ヲ見ルニ「金六萬六千九百九拾四圓參拾九錢貳厘、右ノ負債ハ財產ヲ處分シ其不足額金貳千參百圓ハ村稅ニ賦課徵收シテ此際整理スルモノトスレトアリ果シテ然ラバ右不足額ト稱スル金貳千參百圓ハ谷中村稅戶別割別割トシテ賦課徵收スルガ爲ニ徵稅令書ヲ發シタルコトハ明カナル事實ナリトス今下都賀郡谷中村債ナリト稱スル金額中最モ不法ト認ムルモノヲ左ニ列記シ以テ該金額ハ當然谷中村ノ負擔ニ屬スヘキモノナルヤ否ヤヲ辯セントス

Table with columns for item number (一-十一), amount, creditor name (債權者住所氏名), and debtor name (債務者住所氏名). Items include various land parcels and debts from different villages like 茨城縣猿島郡古河町 and 下都賀郡藤岡町.

合計 五五,二〇〇.〇〇

第一點 第一號ノ金五萬圓ハ當時谷中村助役大野東一ガ株式會社日本勸業銀行ヨリ借受ク之ヲ上郡賀郡清洲村大字久能安生願四郎ニ預入レ其後明治三十四年中當時ノ谷中村長茂呂近助ガ該預金五萬圓ノ中金壹萬圓ヲ安生ヨリ受取りテ更ニ之ヲ茨城縣猿島郡古河町丸山義一ニ預ケ入レタルモノニシテ右金額ハ何レモ谷中村收入役ニ於テ受領シタル證據ナキハ明治三十二年度谷中村收入簿ニ其受入ヲ登記シタル事實ナキニ徴シテ明カナリ

町村制第七十二條ニ依レハ「町村ノ收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ヲ支拂フナシ其他會計事務ヲ

官報號外 明治四十年三月二十四日 衆議院議事速記錄第二十號 質問ニ關スル參考書

學ルトアリ案スルニ例ヘ町村會カ借入ヲ議決シテ適法ニ其借入ヲ爲シタリトスルモ其金員ヲ町村ノ收入トシテ收入役ガ受領スルニ非レハ其債務ニ對シテ町村ガ責任ヲ負フヘキモノニアラサルコトハ大審院第一民事部明治三十六年四月十一日言渡三五(才)第六二二號江草村對眞部千代造貸金請求事件ニ關スル判決ノ明示スル處ナリ果シテ然ラハ谷中村債ナリト稱スル第一號ノ金五萬圓ハ前述べノ事由ニヨリ村民ノ負擔スヘキ義務ナキヤ明白ナリ

第二點 第二號乃至第九號合計金壹千五百七拾圓ハ明治三十三年十月十六日谷中村臨時村會ニ於テ議決シタル議事録ニ記載シタル如ク谷中村地内ノ堤防擴張請願費ノ名義ノ下ニ借入レタルモノニシテ其實ハ加藤伊右衛門、加藤徳吉、染宮太三郎、田中徳次郎、田中明之進、茂呂甚吉等ガ堤防擴張ノ運動ヲ爲シタル費用ノ手控ヲ算出シテ恰カモ之等ノ者ガ谷中村ニ對シテ債權ヲ有スルカ如ク裝ヒタルモノニシテ決シテ眞正ノ手控アリタルナリ

町村制第八十八條ニ依レバ「町村ハ其必要ナル支出及從前法律命令ニ依リテ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依リテ賦課セラレバ支出ヲ負擔スルノ義務アリ」ト明文ヲ存ス案スルニ町村ハ自治ノ主體ナリテ其行政上ノ支出ヲ要スヘキ項目ニ屬テハ當然負擔ノ義務ヲ有スレトモ必要ナル行政費以外ノモノニ關シテハ町村トシテ其支出ヲ負擔スルノ義務ナキモノトス既ニ支出ノ義務ナシトセハ之ニ關スル債務ノ辨濟ニ就テ町村民ノ負擔ニ應ズル義務ナキハ論ヲ俟タズ殊ニ況ヤ從來ノ行政實例ハ明カニ其證左ヲ示セルモノアルニ於テオヤ果シテ然ラハ谷中村債ナリト稱スル第二號乃至第九號合計金壹千五百七拾圓ノ町村行政上必要ナル支出ニ非レバ以テ例ヘ帳簿上收支ノ登記アリトスルモ前述べノ事由ニヨリ村民ノ負擔スヘキ義務ナキヤ明白ナリ

第三點 第十號乃至第十六號合計金壹千六百五拾圓ヲ島村島三郎ニ對スル負債ナルカ如キモ其實同人ヨリ借入レタルモノノ非ス全ク虛構ノ債權ニ過キサルナリ此點ニ關シテハ同人カ任意供述ノ聽取書及田中明之進ナルモノヨリ同人ノ宛テタル債權讓受證書ニ徴シテ明カリナ

案スルニ債權ハ特定ノ當事者間ニ於ケル對人ノ債權關係也甲ハ適法ナル權利ヲ有シ乙ハ適法ナル義務ヲ有スルニ債權ハ特定ノ當事者間ニ於テ行使スヘキ權利ノ實ヲ有スルニ非レハ之ヲ稱シテ適法ナル債權トイフヘカラス又履行スヘキ義務ノ名ヲ存スルニ非レハ之ヲ稱シテ適法ナル債務ト云フヘカラス今島村島三郎ニ對スル負債ニ就テ之ヲ考フルニ債權者ノ地位ニアル同人ハ厘毛タモ谷中村ニ對シテ貸渡シタルコト無シト明言シ未ダ曾テ其返済ノコトヲ豫想セザルニ拘ハラズ債務者ノ地位ニアル谷中村ニ厘毛タモ借受ケタルコトナキ同人ニ對シテ返還ノ義務アリト爲スニ至リテハ其矛盾不條理明ル言ヲ俟タズ是レ寔ニ債權ノ實ナク債務ノ名ナキ虛構空無ノモノト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ谷中村債ナリト稱スル第十號乃至第十六號合計金壹千六百五拾圓ハ前述べノ事由ニヨリ村民ノ負擔スヘキ義務ナキヤ明白也

之ヲ要スルニ以上三點ニ於テ論シタル金五萬參千貳百貳拾圓ノ村債ハ谷中村民ニ於テ負擔スルノ義務ナキモノナルヲ以テ其辨濟ニ究ツル爲ニ町村稅トシテ賦課シタルハ不當ノ甚キモノナルニ付茲ニ本訴願ヲ提起致候

立證
一第一第二ノ兩點ニ就テハ舊谷中村公簿ヲ以テ立證シ第三點ニ就テハ甲乙兩號證ヲ以テ立證仕候
附屬書類
一代理委任狀
一聽取書甲號證及債權讓受證書乙號證寫
以上

明治三十九年七月十九日
右訴願人
島田 政五郎 茂呂松右衛門 鶴見 平五郎 川島 伊三郎 川島伊勢五郎
佐山 梅吉 竹澤 幸次郎 竹澤 鈞藏 間明田 仙彌 染宮 與三郎
染宮 庄助 針谷 民藏 小川 長三郎 竹澤 房藏 竹澤 勇吉
間明田 次郎 水野 常三郎 染宮 重五郎 熊倉 新次郎 宮内 勇次
宮内源左衛門 茂呂 三郎 渡邊 長輔 葛谷 茂吉 島田 熊吉
岩下 七藏 岩下 八五郎 高田 仙次郎 茂呂 彌次 藤次 元吉
落合 幸藏 竹澤 庄藏 篠崎 又吉 水野 茂波 藤三郎

三三三

右訴願人兼總代人
島田 榮藏 川鍋 岩五郎 岩波 彌太吉
下都賀郡藤岡町長森宗吉殿
訴願書

- 栃木縣下都賀郡藤岡町大字内野百四十四番地平民農
島田 政五郎 明治三十九年十月三十日生
- 同 鶴見 平五郎 明治三十九年四月生
- 同 川島伊勢五郎 明治三十九年八月二日生
- 同 小川 長三郎 五十八年
- 同 佐山 梅吉 文久元年三月生
- 同 竹澤 房藏 明治三十九年九月生
- 同 竹澤 幸次郎 明治三十九年十月生
- 同 竹澤 勇吉 文久二年二月日生
- 同 竹澤 鈞藏 明治三十九年九月生
- 同 間明田 桑次郎 安政四年八月生
- 同 間明田 仙彌 万延元年十一月生
- 同 水野 常三郎 文久二年三月生
- 同 染宮 與三郎 文久二年三月生
- 同 染宮 重五郎 五十二年
- 同 染宮 左助 万延元年四月生
- 同 宮内 勇次 明治三十九年八月十一日生

一定ノ申立
 訴願人島田政五郎外二十六名ガ明治三十九年十一月十一日栃木縣下都賀郡參事會栃木縣下都賀郡長吉屋雄一ニ對シテ提起シタル村稅賦課ニ對スル訴願ニ付明治四十年二月六日栃木縣下都賀郡參事會栃木縣下都賀郡長吉屋雄一カ右訴願ハ町村制第百二十條第二項ニ規定セル訴願期限ヲ經過シタルモノナレバ受理スベキ限ニアラストシテ之カ却下ノ處分ヲ爲シタルニヨリ更ニ該處分ヲ取消シ併セテ明治三十九年四月二十一日下都賀郡谷中村長職務管掌下都賀郡書記鈴木豐三カ訴願人島田政五郎外二十三名ニ對シテ發シタル各徵稅令書ハ之ヲ取消スト御裁決相成度候

事實及理由
 第一點 栃木縣下都賀郡參事會栃木縣下都賀郡長吉屋雄一ガ訴願人等ニ對スル訴願却下ノ理由ヲ關スルニ町村制第百二十條第二項ニ規定セル訴願期限ヲ經過シタルモノナレバ受理スベキ限ニアラスト云フニ有リ

案スルニ町村制第百二十條第二項ニ規定セル訴願提起ノ期限ハ町村制中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外及凡ソ町村ノ行政ニ關スル郡長若シクハ郡參事會ノ處分若シクハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ル場合ノ規定ニシテ本訴願ノ如ク町村制第百四條ニ依リテ訴願シタルモノニ對シ町村長ノ裁決アリテ該裁決ニ不服アルカ爲ニ訴願法第八條第二項ノ期限内ニ於テ訴願ヲ提起シタルハ寧モ違法ノ手續ニアラズ然ルニ町村制第百二十條第二項ヲ曲解シテ適法ノ訴願ヲ却下シタルハ訴願人等ノ服スル能ハザル處ナリ

第二點 訴願人等ガ原訴願第一點ノ理由トスル處ハ町村制第七十一條ノ法規ニ依ル收入役ノ權限ニ關スル問題ナリシナリ然ルニ原裁決ハ之ニ對シテ助役ノ事務取扱ニ關スル情實の見解ヲ敷衍シタルニ過キスレハ既ニ一箇ノ訴願ニ對スル裁決トシテハ不法タルヲ免レザルナリ

今假リニ一步ヲ譲リテ少シク原裁決論旨ヲ辯駁セシ原裁決ハ收入役ニ缺員ヲ生シタル場合ニ監督官職ニ於テ適宜之カ措置ヲ爲スモ決シテ違法ニ非ストナシ以テ町村制第七十一條ノ職務規定ニ關スル收入役ノ獨立權限ヲ無視セリ今收入役ノ事務管掌ニ關スル從來ノ行政實例ヲ見ルニ明ラカニ左記ノ證據ヲ存ス

第一 收入役事故アルトキハ自己ノ名義ヲ以テ代人ヲシテ事務ヲ取扱ハセ又缺員中假ノ執務者ヲ定ムル等適宜町村會ノ定ムル所ニ任スヘシ

第二 收入役死亡或ハ退職シ後任者就職迄ノ間ハ市町村會ノ指定ニ委シ市町村長又ハ助役市參事會

員ノ内ヲ以テ其事務ヲ取扱ハセ差支ナシ
主務省ノ決定及通牒並ニ訴訟判決ノ事由ハ既ニ前記二項ノ實例ヲ示セリ更ニ謂テ之ヲ市町村制理由
ニ鑑ルモ收入役ノ事務ヲ單獨ニ分離セシメタルハ要スルニ收支命令者ト實地ノ出納者トヲ分離獨立セ
シメント欲スルニアリ故ニ收入役ノ事務ヲ町村長ニ委任スルハ本制ノ敢テ希望スル所ニ非スシテ此ノ
如キ場合ハ極メテ罕ナル可シトノ說明ヲ下セルヲ見ルナリ

案スルニ收入役ノ權限ハ出納事務上嚴ニ收支命令者ト獨立ノ地歩ヲ有シ町村長助役ト相並ヒテ自治行
政ニ參與スルハ町村制ノ明定スル處タリ而シテ若シ收入役ニ職員ヲ生シタル時ハ町村會ノ指定ヲ待
テ之ヲ町村長又ハ助役ニ委任シ以テ假ニ執務者ヲ設クルコトヲ得ルモノトセリ是レ素ヨリ町村制ノ本
旨ニアラズト雖モ行政機關ノ運轉ヲ圓滑ナラシメタルニ於テ之ヲ認メタルニ過キサルナ
リ故ヲ以テ收入役ノ場合ニ於テ町村長又ハ助役ヲシテ假ノ執務者ヲシタルニ就テハ須ラク之ヲ
町村會ノ指定ニ待テ以テ町村長又ハ助役ノ地位ニ於テ收入役ノ事務ヲ管掌スル所謂兼任ノ資格ヲ明
カニシタル後ニ非レハ二者ノ職掌混同シテ責任ノ歸屬スル處爲メニ曖昧タラサルヲ得ズ助役大野東一
方株式會社日本勸業銀行ヨリ金五萬圓ヲ借入シタル當時ノ事務ニ徵スルニ大野東一ハ單ニ助役タル名義
ヲ以テ借入ヲ契約シ助役タル資格ヲ以テ收入ノ事務ヲ管掌シタルモノナルカ故ニ是レ只一個ノ助役ト
シテ漫然收入役ノ權限ヲ侵犯シタルノ行動ニ止マリ町村會ノ上ニ何等適法ノ效果ヲ生スルモノニ非
ス然ルニ原裁判ハ監督官廳ニ於テ助役大野東一カ金五萬圓受領ノ事務ヲ管掌スルノ行動ヲ默認シタル
モノト論スルモノ何等根柢ナキ理由ト言ハサル可カラズ抑モ一個ノ職務ヲ有スルモノカ能ハ獨立ナル一
個ノ權限ニ立入りテ不適法ノ行動ヲ執ルニ際シ之カ監督官廳モノハ果シテ能ク默認ノ下ニ看過シ
テ可ナラザラス如キ場合ニ於テ默認ノ義務シテ之カ法條果シテ何レニ存スル歟

退イテ之ヲ受ケルニ新タニ町村ヲ負擔ヲ起ス場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ更ニ內務大臣及大藏大
臣ノ認可ヲ要フルコトヲ要スルハ町村制第二百二十六條ノ規定スル處タリ而シテ金五萬圓株式會社日
本勸業銀行ヨリ借受ケタルハ實ニ明治三十二年五月二十三日ノ事ニ屬ス然ルニ金五萬圓ノ村債ヲ起ス
ニ就テハ同年度ニ於テ何等村會ノ議決ヲ經タルコトナク又何等監督官廳ノ許可ヲ受ケタルコトナシ
ノ如キノ負擔果シテ適法ナル村債ト稱スルヲ得ル歟

之ヲ要スルニ金五萬圓ノ村債ハ事理ノ兩面ヨリ觀察シテ不正不當ノ甚キモノナリト論斷セザル可
ラス然ルニ原裁判ガ毫毛違法ノ點ナキモノト認メタルハ訴願人等ノ不服ニ堪ヘサル處也
第三點 加藤伊右衛門外七名カ谷中村ニ貸付ケタルト稱スル會計金壹千五百七拾圓ハ既ニ原訴願第二
點ニ於テ申立タルカ如ク全ク假裝ノ債權ニ過キサルノミナラス町村行政上必要ナル支出ニ非ラ
テ例ヒ帳簿上收支ノ登記アリトスルモ村民ノ負擔スル義務ナキハ疑ヲ容レサル處ナリ然ルニ原裁判ニ
依レハ其債務ノ原因ハ町村公共事務ノ爲ナルカ故ニ之ニ要スル支出ハ町村制第八十八條ニ所謂必用支
出ナリト云フニアリ

案スルニ町村制第八十八條ニ依ル必要ナル支出トハ町村行政上必需ノ費用ニシテ隨時事務ニ要スル費
用トハ自ラ別異ナリトス是レ從來ノ行政實例ニ於テ明カニ其證ヲ示セル處ナリ故ニ堤防擴張請願運
動費ノ如キハ寧ろ隨時事務ニ屬スルモノニシテ一村自治ノ上ニ及ボス效果ハ何等法律ノ拘束ヲ生スベ
キモノニ非ス果シテ然ラハ之ヲ目シテ違法ニ非スト論スル原裁判ハ訴願人等ノ到底服從スル能ハサル
處ナリ

第四點 原訴願第三點ニ於テ論シタルカ如ク金壹千六百五拾圓ハ島村島三郎ニ對スル負債ナルカ如キ
モ其實同人ヨリ借入シタルモノニ非ス全ク虛構ノ債權ニ過キサルナリ此點ニ關シテハ同人カ提供セル
證明書ニ徴シテ瞭然又疑ヲ存スルノ餘地ナシ是ヲ以テ原裁判ヲ論旨ニ向テハ全然服從スルコト能ハサ
ルナリ

不服ノ程度及訴願ヲ爲ス旨ノ陳述
以上四點ニ於テ論シタルカ如ク金五萬圓參千貳百貳拾圓ノ村債ハ谷中村民ニ於テ負擔スルノ義務ナキモ
ノナルニ拘ハラズ原裁判ニ於テ之ヲ是認シタルハ失當ノ甚キモノナルニ因リ不服ノ訴願ヲ提起シタ
ルニ下都賀郡參事會カ法律ヲ曲解シテ之ヲ却下シタルハ訴願人等ノ到底服從スル能ハサル處ナルニ付更
ニ事由ヲ開陳シテ及訴願候

尙原訴願書ヲ援用シテ本訴願事由ノ補加ニ供シ申候

立證

一 第二第三ノ兩點ニ就テハ舊谷中村公簿ヲ以テ立證シ第四點ニ就テハ證明書ヲ以テ立證可仕候
一 證明書寫
一 裁決書
一 郡第二號處分書
一 代理委任狀
一 附屬書類
以上
明治四十年二月二十二日
右訴願人
島田 政五郎印 小川 長三郎印 宮内 勇次郎印 川島伊勢五郎印 水野 常三郎印
竹澤 鈞藏印 竹澤 勇吉印 竹澤 房藏印 竹澤 幸次郎印 間明田 桑次郎印
染宮 重五郎印 佐山 梅吉印 茂呂松右衛門印 染宮 與三郎印 竹澤 庄藏印
渡邊 長輔印 茂呂 茂吉印 マサ印 鶴見 平五郎印 染宮 庄助印 間明田 仙彌印
水野 彦市
(水野三郎代印)
右訴願人兼總代
島田 榮藏印 高田 仙次郎印 島田 熊吉印
栃木縣參事會
栃木縣知事中山巳代藏殿
證明書(寫)
拙者ヨリ谷中法人ニ對シ明治三十七年六月二十四日金五拾圓ヲ貸與セシモ明治三十四年五月二十三日
付ヲ以テ谷中村自治ニ對シ金壹千六百五拾圓ヲ支出セシ覺毛頭無之ニ付此段堅ク證明候也
明治三十九年八月三十日
下都賀郡藤岡町百八十二番地
島村 島三郎印
右寫ノ通二候也
明治四十年二月二十二日
訴願人總代
島田 榮藏
高田 仙次郎
島田 熊吉

委任狀
自分等島田榮藏高田仙次郎島田熊吉ノ三名ヲ代理人ト定メ左ノ行爲ヲ委任ス
一 自分等ヨリ栃木縣參事會ニ向テ提起スル村稅賦課ニ對スル訴願ニ就キ訴願書ヲ提出シ之ニ關スル
必要ノ行爲ヲナスノ件
但明治三十九年十月十三日付第二二四六號下都賀郡藤岡町長森宗吉カ訴願人タル自分等ニ對シテ
爲シタル裁決ニ對シ不服ノ訴願ヲ下都賀郡參事會ニ提起シタル處同參事會ハ明治四十年二月六日
付郡第二號ヲ以テ該訴願ニ對シ却下處分ヲ爲シタルニ付更ニ栃木縣參事會ニ向ヒテ不服ノ訴願ヲ
爲スノ件
一本件ニ付復代理人選任ノ件
右代理委任候也
明治四十年二月二十二日

島田 政五郎印 伏山 梅吉印 染宮 重五郎印 茂呂松右衛門印 小川 長三郎印
染宮 與三郎印 宮内 勇次郎印 竹澤 庄藏印 川島伊勢五郎印 渡邊 長輔印
水野 常三郎印 茂呂 茂吉印 マサ印 鶴見 平五郎印 竹澤 勇吉印
染宮 庄助印 竹澤 房藏印 間明田 仙彌印 竹澤 幸次郎印 水野 彦市
間明田 桑次郎印

島田 政五郎印 伏山 梅吉印 染宮 重五郎印 茂呂松右衛門印 小川 長三郎印
染宮 與三郎印 宮内 勇次郎印 竹澤 庄藏印 川島伊勢五郎印 渡邊 長輔印
水野 常三郎印 茂呂 茂吉印 マサ印 鶴見 平五郎印 竹澤 勇吉印
染宮 庄助印 竹澤 房藏印 間明田 仙彌印 竹澤 幸次郎印 水野 彦市
間明田 桑次郎印

島田 政五郎印 伏山 梅吉印 染宮 重五郎印 茂呂松右衛門印 小川 長三郎印
染宮 與三郎印 宮内 勇次郎印 竹澤 庄藏印 川島伊勢五郎印 渡邊 長輔印
水野 常三郎印 茂呂 茂吉印 マサ印 鶴見 平五郎印 竹澤 勇吉印
染宮 庄助印 竹澤 房藏印 間明田 仙彌印 竹澤 幸次郎印 水野 彦市
間明田 桑次郎印

島田 政五郎印 伏山 梅吉印 染宮 重五郎印 茂呂松右衛門印 小川 長三郎印
染宮 與三郎印 宮内 勇次郎印 竹澤 庄藏印 川島伊勢五郎印 渡邊 長輔印
水野 常三郎印 茂呂 茂吉印 マサ印 鶴見 平五郎印 竹澤 勇吉印
染宮 庄助印 竹澤 房藏印 間明田 仙彌印 竹澤 幸次郎印 水野 彦市
間明田 桑次郎印

島田 政五郎印 伏山 梅吉印 染宮 重五郎印 茂呂松右衛門印 小川 長三郎印
染宮 與三郎印 宮内 勇次郎印 竹澤 庄藏印 川島伊勢五郎印 渡邊 長輔印
水野 常三郎印 茂呂 茂吉印 マサ印 鶴見 平五郎印 竹澤 勇吉印
染宮 庄助印 竹澤 房藏印 間明田 仙彌印 竹澤 幸次郎印 水野 彦市
間明田 桑次郎印

島田 政五郎印 伏山 梅吉印 染宮 重五郎印 茂呂松右衛門印 小川 長三郎印
染宮 與三郎印 宮内 勇次郎印 竹澤 庄藏印 川島伊勢五郎印 渡邊 長輔印
水野 常三郎印 茂呂 茂吉印 マサ印 鶴見 平五郎印 竹澤 勇吉印
染宮 庄助印 竹澤 房藏印 間明田 仙彌印 竹澤 幸次郎印 水野 彦市
間明田 桑次郎印

納書

一 訴願書 壹通
但栃木縣參事會宛村稅賦課ニ對スル訴願
外付圖書類
一 證明書寫 壹通
一 委任狀 壹通
添付書類
一 郡第二號明治四十年二月六日付處分書 壹通
一 下都賀郡參事會宛明治三十九年十一月十日付村稅賦課ニ對スル訴願書 壹通
一 證明書寫 壹通
一 第二四六號明治三十九年十月十三日付藤岡町長森宗吉ノ裁決書 壹通

右納候也
明治四十年二月二十二日

訴願人兼總代

島田 榮藏印
高田 仙次郎印
島田 龍吉印

郡第貳號

栃木縣參事會
栃木縣知事中山巳代藏殿

右代理兼訴願人
栃木縣下都賀郡藤岡町大字内野百四十四番地
平民農

訴願人
島田 政五郎
外二十四名

同上

栃木縣下都賀郡藤岡町大字下宮七番地平民農
川鍋 岩五郎

同上
栃木縣下都賀郡藤岡町大字下宮七番地平民農
川鍋 岩五郎

右訴願人請求ノ要旨ハ明治三十九年四月二十一日 栃木縣下都賀郡元谷中村長職務管掌下都賀郡書記鈴木豐三カ發シタル各徵稅令書ノ取消ヲ求ムル訴願ニ對シ明治三十九年十月十三日 栃木縣下都賀郡藤岡町長森宗吉カ爲シタル裁決及元谷中村長職務管掌ヨリ發シタル各徵稅令書ヲ不當トシ之カ取消ヲ乞フト云フニアリト雖モ 訴願人兼總代島田榮藏外壹名ハ明治三十九年十月十四日藤岡町長ヨリ水件裁決書ノ交付ヲ受領シ其後明治三十九年十一月十一日ニ至リ本訴願ヲ提起セシモノニシテ 町村制第百二十條第二項ニ規定セル訴願期限ヲ經過シタルモノナレハ受理スヘキ限ニアラス依テ本訴願ハ之ヲ却下ス
明治四十年二月六日

栃木縣下都賀郡參事會

栃木縣下都賀郡長 吉屋 雄一郎

栃木縣 明治三十九年十一月十三日
下都賀郡 第一〇五二一號
郡役所 都

藤岡町 明治三十九年十一月十一日受
役場 第三五〇六號



訴願書

栃木縣下都賀郡藤岡町大字内野百四十四番地
平民農
島田 政五郎
明治三十九年三月十日生
外二十四名

訴願人

同兼總代

島田 榮藏

天保九年十月十五日生

同縣同郡同町大字下宮七番地平民農

川鍋 岩五郎

天保四年八月二十日生

同兼總代

事實及理由

第一點 訴願人等カ原訴願第一點ノ理由トスル處ハ町村制第七十一條ノ法規ニ依ル收入役ノ權限ニ關スル問題ナリシナリ然ルニ原裁決ハ之ニ對シテ助役ノ事務取扱ニ關スル情實の見解ヲ數演シタルニ過ギズ是レ既ニ一個ノ訴願ニ對スル裁決トシテハ不法タルヲ免レザル也
今假ニ一步ヲ讓リテ少シク原裁決論旨ヲ辯駁セシテ原裁決ハ收入役ニ缺員ヲ生シタル場合ニ監督官廳ニ於テ適宜ノカ措置ヲ爲スモ決シテ違法ニアラストナシテ以テ町村制第七十一條ノ職務規定ニ關スル收入役ノ獨立權限ヲ無視セリ今收入役ノ事務管掌ニ關スル從來ノ行政實例ヲ見ルニ明カニ左記ノ證據ヲ存ス

第一 收入役事故アルトキハ自己ノ名義ヲ以テ代人ヲシテ事務ヲ取扱ハセ又缺員中假リノ執務者ヲ定ムル等適宜町村會ノ定ムル所ニ任ス可シ
第二 收入役死亡シ或ハ退職シ後任者就職スル迄ノ間ハ市町村會ノ指定ニ委シ市町村長又ハ市參事會員ノ内ヲ以テ其事務ヲ取扱ハスルモ妨ケス
主務省ノ決定及通牒并ニ訴願裁決ノ事由ハ既ニ前記二項ノ實例ヲ示セリ更ニ職テ之ヲ市制町村制理由ニ鑑ルニ收入役ノ事務ヲ單獨ニ分擔セシメタルハ要スルニ收支命令者ト實地ト出納者トヲ分擔獨立セシメント欲スルニアリ故ニ收入役ノ事務ヲ町村長ニ委任スルハ本制ノ取テ希望スル所ニアラスシテ此ノ如キ場合ハ極メテ罕ナルヘシトノ說明ヲ下セルヲ見ルナリ
案スルニ收入役ノ權限ハ出納事務上嚴ニ收支命令者ト獨立ノ地步ヲ有シ町村長助役ト相並ヒテ自治行政ニ參與スルハ町村制ノ明定スル處タリ而シテ若シ收入役ニ缺員ヲ生シタルトキハ町村會ノ指定ヲ待チテ之ヲ町村長又ハ助役ニ委任シ以テ假リノ執務者ヲ設クルコトヲ得ルモノトセリ是レ素ヨリ町村制ノ本旨ニ非スト雖モ行政機關ノ運轉ヲ圓滑ナラシメンカ爲ニ窮通ノ策トシテ之ヲ認メタルニ過キサルナリ故ヲ以テ收入役缺員ノ場合ニ於テ町村長又ハ助役ヲ以テ假リノ執務者ヲラシムルニ就テハ須ララ之ヲ町村會ノ指定ニ待チ以テ町村長又ハ助役タル地位ニ於テ收入役ノ事務ヲ管掌スル所謂兼任ノ資格ヲ明カニシタル後ニ非レハ二者ノ職掌混同シテ責任ノ歸屬スル處爲ニ曖昧タルヲ得ス 助役大野東一カ株式會社日本勸業銀行ヨリ金五萬圓ヲ借入レタル當時ノ事跡ニ徵スルニ大野東一ハ單ニ助役タル名義ヲ以テ借入レ契約シ助役タル資格ヲ以テ借入レ事務ヲ管掌シタルモノナルカ故ニ是レ唯一個ノ助役トシテ漫然收入役ノ權限ヲ侵犯シタルノ行動ニ止マリ町村收入ノ上ニ何等適法ノ效果ヲ生スルモノニ非ズ然ルニ原裁決ハ監督官廳ニ於テ助役大野東一ガ金五萬圓受領ノ事務ヲ管掌スルノ行動ヲ默認シタルモノト論スルモ何等根柢ナキ理由ト言ハサルヘカラス抑モ一個ノ職務ヲ有スル者ガ他ノ獨立ナル一個ノ權限ニ立入りテ不適法ノ行動ヲ執ルニ際シ之カ監督官廳タルモノハ果シテ能ク默認ノ下ニ看過シテ之ヲ若フルニ新タニ町村ノ負債ヲ起ス場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ更ニ内務大臣及大藏大

臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルハ町村制第百二十六條ノ規定スル所ナリ而シテ金五萬圓ヲ株式會社日
本勸業銀行ヨリ借受ケタルハ實ニ明治三十二年五月二十三日ノ事ニ屬ス然ルニ金五萬圓ノ村債ヲ起ス
ニ就テハ同年年度ニ於テ何等村會ノ議決ヲ經タルコトナク又何等監督官廳ノ許可ヲ受ケタルコト無シ斯
ノ如キノ負債果シテ適法ナル村債ト稱スルヲ得ル歟
之ヲ要スルニ金五萬圓ノ村債ノ事理ノ兩面ヨリ觀察シテ不正不當ノ甚シキモノナリト論斷セサルヲ得
ス然ルニ原裁決カ毫モ違法ノ點ナキモノト認メタルハ訴願人等ノ不服ニ堪ヘサル處ナリ
第二點 加藤伊右衛門外七名カ谷中村ニ貸付ケタリト稱スル合計金一千五百七十圓ハ既ニ原訴願第二
點ニ於テ申立テタルカ如ク全ク假裝ノ債權ニ過キサルノミナラス町村行政上必要ナル支出ニ非ルヲ以
テ例ヒ帳簿上收支ノ登記アリトスルモ村民ノ負擔スル義務ナキハ疑ヲ容レサル處ナリ然ルニ原裁決ニ
依レハ其債務ノ原因ハ町村公共事務ノ爲ナルカ故ニ之ニ要スル支出ハ町村制第八十八條ニ所謂必要支
出ナリト云フニ在リ

第三點 原訴願第三點ニ於テ論シタル如ク金壹千六百五拾圓ハ島村島三郎ニ對スル負債ナルカ如キモ
其實同人ヨリ借入レタルモノニ非ス全ク虛構ノ債權ニ過キサルナリ此點ニ關シテハ同人カ提供セル證
明書ニ徴シテ瞭然又疑ヲ存スルノ餘地ナシ是ヲ以テ原裁決ノ論旨ニ向テハ全然服從スル能ハサルナリ
不服ノ程度及訴願ヲ爲ス旨ノ陳述

以上三點ニ於テ論シタル金五萬三千二百二十圓ノ村債ハ谷中村村民ニ於テ負擔スルノ義務ナキモノナル
ニ拘ハラス原裁決ニ於テ之ヲ是認シタルハ失當ノ甚タシキモノニシテ全部不服ナルニ付更ニ事由ヲ開
陳シテ及訴願候
尙亦原訴願書ヲ援用シテ本訴願事由ノ補加ニ供シ候

立證
一第一第二ノ兩點ニ就テハ舊谷中村公簿ヲ以テ立證シ第三點ニ就テハ證明書ヲ以テ立證可仕候
一證明書寫
一裁決書寫
附屬書類
一代理委任狀

以上
明治三十九年十一月十日
右訴願人
島田 政五郎印 鶴見 平五郎印 針谷 民藏印 川島伊勢五郎印 小川 長三郎印
佐山 梅吉印 竹澤 房藏印 竹澤 幸次郎印 竹澤 勇吉印 竹澤 鈞藏印
間明田 桑次郎印 間明田 仙彌印 水野 常三郎印 染宮 與三郎印 染宮 重五郎印
染宮 庄助印 宮内 勇次郎印 茂呂松右衛門印 渡邊 長輔印 茂呂 マサ印
島田 熊吉印 高田 仙次郎印 水野 彦市印 茂呂 元吉印 竹澤 庄藏印
右訴願人兼總代
島田 榮藏印
川鍋 岩五郎印

下都賀郡參事會
下都賀郡長吉屋雄一殿
證明書(寫)
拙者ヨリ谷中村自治ニ對シ明治三十七年六月二十四日金五拾圓也ヲ貸與セシモ明治三十四年五月二十三
日付ヲ以テ谷中村自治ニ對シ金壹千六百五拾圓ヲ支出セシ覺毛頭無之ニ付此段堅ク證明候也

明治三十九年八月三十日
下都賀郡藤岡町百八十二番地
島村 島三郎印
右寫ノ通ニ候也
明治三十九年十一月十日
訴願人兼總代
島田 榮藏印
川鍋 岩五郎印

代理委任狀
自分等島田榮藏川鍋岩五郎ノ兩名ヲ代理人ト定メ左ノ行爲ヲ委任ス
一自分等ヨリ下都賀郡參事會ニ向テ爲ス處ノ村稅賦課ニ對スル訴願ニ付訴願書ヲ提出シ之ニ關スル
必要ノ行爲ヲ爲スノ件
但明治三十九年十月十三日付第二二四六號下都賀郡藤岡町長森宗吉ノ訴願人タル自分等ニ對シテ
爲シタル裁決ニ對シ不服ノ訴願ヲ爲ス件
一事件ニ付復代理人ヲ選任スルノ件
右代理委任候也
明治三十九年十一月八日

島田 政五郎印 鶴見 平五郎印 茂呂 元吉印 川島伊勢五郎印 小川 長三郎印
佐山 梅吉印 高田 仙次郎印 島田 熊吉印 茂呂松右衛門印 渡邊 長輔印
茂呂 マサ印 染宮 庄助印 染宮 重五郎印 染宮 與三郎印 宮内 勇次郎印
竹澤 鈞藏印 間明田 桑次郎印 間明田 仙彌印 竹澤 房藏印 竹澤 幸次郎印
竹澤 勇吉印 水野 彦市印 針谷 民藏印 水野 常三郎印 竹澤 庄藏印

第二二四六號 裁決書
栃木縣下都賀郡藤岡町大字内野四十四番地平
民農
島田 政五郎
外三十四名
右訴願人兼總代
栃木縣下都賀郡藤岡町大字惠下野四十七番地
平民農
島田 榮藏
同縣同郡同町大字下宮七番地平民農
川鍋 岩五郎
同縣同郡同町同字百三十番地平民農
岩波 彌太吉

訴願人等陳述ノ要旨ハ第一金銀債務ニ對スル町村ノ責任原因ハ收入役カ町村ノ收入トシテ其給付ヲ受
領シタルコトヲ要ス谷中村カ株式會社日本勸業銀行ヨリ借入タル金五萬圓ノ受領者ハ收入役ニアラス
シテ助役大野東一ナルカ故ニ同村ハ之ニ對シテ責任ヲ有セス從テ村民モ亦之ヲ村稅トシテ賦課セラ
ルノ義務ナク第二明治三十三年十月十六日同村臨時村會議決堤防擴張請願費千五百七十圓ハ加藤伊
右衛門外七名カ谷中村ニ對シテ債權ヲ有スルカ如ク裝ヒタルモノニシテ眞ノ村債ニ非ルヲ以テ其辨濟
ハ町村必要ノ支出ニアラス從テ村民ハ之ヲ村稅トシテ負擔スルノ義務ナク第三島村島三郎ヨリ借入
金壹千六百五拾圓モ亦虛構ノ債權ニシテ眞ノ村債ニアラサルカ故ニ村民ハ第二點ト同様ニ負擔ノ義務
ナシ故ニ谷中村カ此等ノ費用ヲ村稅トシテ訴願人等ニ賦課シタルハ不當ナルヲ以テ之カ徵稅令書ヲ取
消サレタシト云フニ在リ

仍テ町村制第五條ニ依リ審査ヲ遂ゲタル處第一訴願人等ハ町村ノ收入トナルヘキ給付特ニ金銀ハ收入役ノ受領ヲ以テ必要條件ト爲スカ故ニ助役ノ受領ハ決シテ町村ノ收入ニ非スト云フモノハ收入役ノ存スル場合ニ於テ然ルノミ若シ收入役ニ缺員ヲ生ジテ町村制第七十一條ノ事務ヲ掌ルモノナキトキハ監督官廳ニ於テ適宜ノガ措置ヲ爲スモ決シテ違法ノ處分ニ非ズ 谷中村助役大野東一カ株式會社日本勸業銀行ヨリ金五万圓ヲ受領シタル當時ハ收入役及村長ニ缺員ヲ生ジタル時ナリシヲ以テ此際若シ收入役ノ事務ヲ管掌スルモノナカラシムルハ行政機關ハ忽チ休セザルヲ得サレバ監督官廳ハ助役大野東一ヲシテ事實上收入役ノ事務ヲ管掌セシムルコトヲ默認シ以テ行政機關ノ運轉ニ障礙ナカラシメタルモノナルカ故ニ助役大野東一ハ假令收入役ノ職ニアラスト雖モ收入役ノ事務中金五万圓受領ノ事務ヲ管掌スルニ於テ毫モ違法ノ點ナキモノト認ム從テ谷中村カ之ニ要スル費用ノ一部ヲ村稅ニ賦課シタルハ適法ナリトス 第二訴願人等ハ加藤伊右衛門外七名カ谷中村ニ貸付ケタル金千五百七拾圓ハ假裝ノモノナリトナスモ當時ノ購事録及債務證書ニ徴シタル何レモ適法タルノミナラズ 議決ノ内容モ亦堤防築築ニ關スル費用ナルカ故ニ谷中村ノ公共事務ニ要スル支出タルコト明白也假ニ該債權ハ當事者双方ノ虛偽ノ意志表示ニ過キタルモノ、ソハ民法上ノ問題ナルカ故ニ民法上該法律行為ハ明カニ虛偽表示ニシテ無効タルコト確定シタル後ニ非レバ谷中村ノ債務ハ消滅スルモノニ非サルヲ以テ其消滅以前ノ行為ハ適法ナリ加フルニ其債務ノ原因ハ町村公共事務ノ爲ナルカ故ニ之ニ要スル支出ハ町村制第十八條ニ所謂必要支出ナリ從テ谷中村カ之費用ノ一部ヲ村稅トシテ訴願人等ニ賦課シタルハ適法ニ非ズ 第三訴願人等ハ島村島三郎カ谷中村ニ對スル債權モ亦假裝債權ニ過キスト爲スモ第二點ト同様理由ニ依リ町村制第八十八條ニ非ズ 就中訴願人等ガ提供スル乙號證ハ反テ谷中村カ債權ノ務ヲ有スルコトヲ證スルニ非ズ 假令島村島三郎ハ現實出資者ニアラスシテ眞ノ出資者ハ田中明之進ナリトスルモノハ債權者内部ノ關係ナリ債權者内部關係ノ如何ハ決シテ債權ノ本質ヲ害スルモノニアラス故ニ若シ島村島三郎ハ眞ノ出資者ニアラストスレバ田中明之進ハ只谷中村ニ對スル債權者シタルハ債權ノ物體ヲ更ニ田中明之進ニ無償讓渡ヲナスノ義務ヲ負フト云フニ過キス之カ爲メ谷中村ハ全然債務ヲ有セスト云フハ非也從テ谷中村カ之費用ノ一部ヲ村稅ニ賦課スルモ違法ニ非ズ

右ノ理由ニ依リ裁決スルコト左ノ如シ

明治三十九年四月二十一日 下都賀郡谷中村長職務管掌下都賀郡書記鈴木豐三カ發シタル三十九年度元谷中村歲入村稅徵稅令書ハ取消スヘキ限ニアラス

明治三十九年十月十三日

證明書

栃木縣下都賀郡藤岡町長 森 宗吉印

一明治三十九年四月頃舊谷中村大字内野茂呂松右衛門方ニテハ古刀二本盜マレタリ同年五月頃同所茂呂マサ獨リ居住セルニ毎夜ノ如ク泥棒體ノモノ來タリ脅シタリ

當時谷中村大字下宮間明田桑次方集會ノ席上ニテは泥棒ハ縣廳ノ廻シモノナリト云フ者アリ臨時立會巡查佐野某之ヲ聽キ止メテヨリ泥棒來ラス同年十二月ニ至ル 栃木縣官吏夜ル人民ノ家ニ來リ戸ヲ叩キ誘惑的威嚇ヲ以テ家屋敷土地田畑ヲモ賣ルヘシト強ヘ又白晝隣村隣縣ノ惡供ヲ谷中村中ニ遊說セシメ人民ヲ誘惑的詐言ノ行為ヲ働セシム

右相違無之證明候也

明治四十年一月二十一日

下都賀郡藤岡町大字内野

茂呂松右衛門 茂呂 マサ

證明書

一明治三十九年十二月二十九日 前九時頃藤岡町大字藤岡へ色々用アリテ出頭シタル所歸ル途中栃木縣官吏左部彦次郎田中與四郎ガ出デ用ガアルカラ一寸アソコマデ歸レトテ引返シ藤岡ノ料理店カドヤニ引込ミ茨城縣古河町平民宮内喜平并ニ栃木縣平民地村政次居リテ都合四人アリ先ヅ左部彦次郎曰ク「アンナ老ヘタル親父ニハ相談セストモ貴ヘガ拇印デモナンデモ捺スベシソウスレバ縣廳ニ高ク買ハセルカラ賣ツタ方ガヨイデハナイカト色々勸メタルモ應ゼザルヨリ右四名ガ色々ト惡言ヲ云テ一時間程イダメ居タリ

一次ニ又其夜十時頃無提灯ニテ栃木縣官吏左部彦次郎ガ自宅ニ來リ財産ヲ賣ルベキ旨イロク強テ勸メタリ

一其後明治四十年一月十日夜一時頃矢張無提灯ニテ官吏左部彦次郎來リ財産ヲ賣ルベシト色々ハケ間敷迫マリタリ

右相違無之候ニ付證明候也

明治四十年一月二十一日

下都賀郡藤岡町大字内野

茂呂 吉盛

父茂呂松左衛門印

證明書

一明治四十年一月九日夜十一時頃無提灯ニテ栃木縣官吏左部彦次郎田中與四郎來リ右左部彦次郎曰ク村ノ殘民ニハ契約ガアルソノダガソノ約定ヲ破ルノハ易ク出來ル其方法ハ縣廳デシテヤル若シ裁判ニナレバ縣廳ガ之レヲ引合テヤルカラソノコトハ差支ナイカラ財産ヲ賣レト色々強テ迫マリタリ

一其後一月十三日夜矢張無提灯ニテ栃木縣官吏左部彦次郎田中與四郎來リ己ニ自宅ニテハ眠リタルキ戸ヲタ、キテ起ス其時ハ起キテ面會セザルヨリ二人ハ直チニ歸リタリ

右相違無之ニ付證明候也

明治四十年一月二十一日

下都賀郡藤岡町大字内野

渡邊 長輔

證明書

明治四十年一月十九日後八時私借家ノ家茨城縣猿島郡古河町大字船戸町ニ 栃木縣官吏左部彦次郎ナルモノ一人入來リ其方義ヲ栃木縣ノ雇吏一箇月金拾五圓ニ採用スルト云ツテ右左部彦次郎ト申者又々私留主中夜分妾態倉たい子ニ對シ夫私ヲ周旋スル云々トド、敷申サレテ當惑ノ折柄私歸宅致シタルバ尙前言ヲ以テ私ヲ誘惑強迫シテ其儘立歸レリ

右證明候也

明治四十年二月十一日

群馬縣邑樂郡大島村

大澤 新八郎